

(19)日本国特許庁(JP)

(12)公開特許公報(A)

(11)公開番号
特開2024-21570
(P2024-21570A)

(43)公開日 令和6年2月16日(2024.2.16)

(51)国際特許分類
A 6 3 F 7/02 (2006.01)

F I
A 6 3 F 7/02 3 0 4 D
A 6 3 F 7/02 3 1 0 Z

テーマコード (参考)
2 C 0 8 8

審査請求		未請求	請求項の数	1	O L	(全54頁)
(21)出願番号	特願2022-124483(P2022-124483)		(71)出願人	391010943		
(22)出願日	令和4年8月4日(2022.8.4)			株式会社藤商事		
				大阪府大阪市中央区内本町一丁目1番4号		
			(74)代理人	110001645		
				弁理士法人谷藤特許事務所		
			(72)発明者	今山 武成		
				大阪市中央区内本町一丁目1番4号 株式会社藤商事内		
			Fターム (参考)	2C088	BC21 DA07 DA13 DA23	EA02 EB78

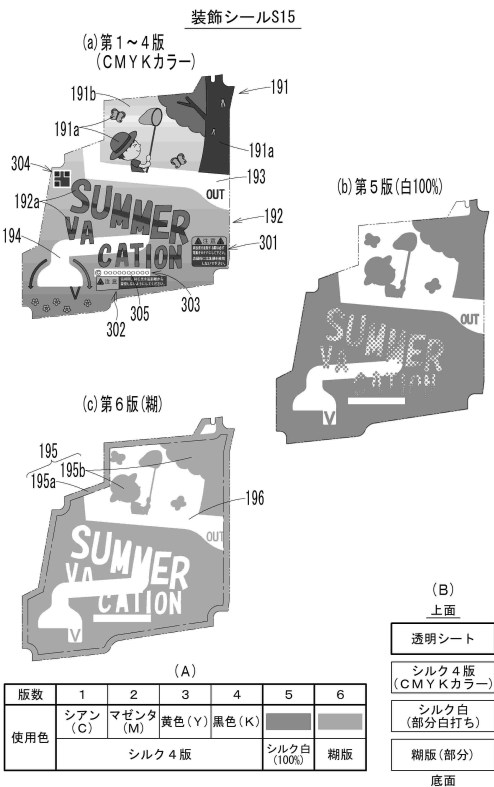
(54)【発明の名称】 遊技機

(57)【要約】

【課題】遊技機の価格高騰をより適切なかたちで抑制する。

【解決手段】透光部と複数のLEDとを有する電飾装置において、透光部の外縁に非透光部を設け、LEDを、非透光部の後側に配置する。また、裏面に糊層を有する貼付シートを所定の被貼付部に貼付し、貼付シートは、その少なくとも一部に装飾が施された装飾貼付シートと、注意喚起情報を表示する注意喚起情報表示部を備え且つ装飾貼付シートではない注意喚起情報貼付シートとを含み、装飾貼付シートのうちの特定装飾貼付シートは、注意喚起情報を表示する注意喚起情報表示部を備え、特定装飾貼付シートを構成する透明シートの一部に非透光部を形成するとともに非透光部に注意喚起情報表示部を設け、注意喚起情報貼付シートは、所定色の非透明シートに対して印刷され、特定装飾貼付シートは、無色の透明シートに対して印刷されている。

【選択図】図16



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

透光部と、該透光部を発光させる複数の光源とを有する電飾装置を備え、裏面に糊層を有する貼付シートを所定の被貼付部に貼付し、前記貼付シートは、その少なくとも一部に装飾が施された装飾貼付シートを含む遊技機において、前記透光部の外縁に非透光部を設け、前記光源を、前記非透光部の後側に配置し、前記装飾貼付シートのうちの特定制装飾貼付シートは、注意喚起情報を表示する注意喚起情報表示部を備え、前記特定制装飾貼付シートを構成する透明シートの一部に非透光部を形成するとともに該非透光部に前記注意喚起情報表示部を設け、前記貼付シートは、注意喚起情報を表示する注意喚起情報表示部を備え且つ前記装飾貼付シートではない注意喚起情報貼付シートを含み、前記注意喚起情報貼付シートは、所定色の非透明シートに対して印刷され、前記特定制装飾貼付シートは、無色の透明シートに対して印刷されていることを特徴とする遊技機。

10

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、パチンコ機等の遊技機に関するものである。

20

【背景技術】

【0002】

パチンコ機等の遊技機では、遊技領域内の遊技部品等、遊技機本体の各部に装飾用その他の各種貼付シートが貼付されている（特許文献1）。

また、この種の遊技機では、遊技機本体の前側各部に電飾装置が配置されており、画像表示手段、可動体、音声出力手段等の他の演出手段と同期して所定の発光パターンで発光することにより、遊技状態に応じた演出を行うことが可能となっている。

【先行技術文献】

【特許文献】

30

【0003】

【特許文献1】特開2006-55292号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

最近では部材供給量の低下に伴って部品価格が上昇し、その結果、遊技機の価格高騰に繋がっている。そのような背景から、遊技機の価格を抑える為の対策が求められている。遊技機の価格高騰に対する対策としては、新規部品の調達量を減らすために、遊技部品の小型化やリユース、他の機種への流用等を進めることが考えられる。

しかしながら、このようなリユース等の対策を進めることで、真新しさが薄れ、遊技者が飽きを感じやすくなってしまうという懸念が生じる。そのため、電飾装置等の演出手段の見栄えをよくするなど、演出効果をより高めるための工夫が求められている。また、再利用の可能性のある遊技部品に貼付される貼付シートに関しては、その数をなるべく少なくしてコストを削減する必要がある。

40

本発明は上記事情に鑑みてなされたものであり、遊技機の価格高騰をより適切なかたちで抑制することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0005】

本発明は、透光部と、該透光部を発光させる複数の光源とを有する電飾装置を備え、裏面に糊層を有する貼付シートを所定の被貼付部に貼付し、前記貼付シートは、その少なく

50

とも一部に装飾が施された装飾貼付シートを含む遊技機において、前記透光部の外縁に非透光部を設け、前記光源を、前記非透光部の後側に配置し、前記装飾貼付シートのうちの特定装飾貼付シートは、注意喚起情報を表示する注意喚起情報表示部を備え、前記特定装飾貼付シートを構成する透明シートの一部に非透光部を形成するとともに該非透光部に前記注意喚起情報表示部を設け、前記貼付シートは、注意喚起情報を表示する注意喚起情報表示部を備え且つ前記装飾貼付シートではない注意喚起情報貼付シートを含み、前記注意喚起情報貼付シートは、所定色の非透明シートに対して印刷され、前記特定装飾貼付シートは、無色の透明シートに対して印刷されているものである。

【発明の効果】

【0006】

本発明によれば、遊技機の価格高騰をより適切なかたちで抑制することが可能である。

【図面の簡単な説明】

【0007】

【図1】本発明の第1の実施形態に係るパチンコ機の全体正面図である。

【図2】同パチンコ機の分解斜視図である。

【図3】同パチンコ機のガラス扉の分解斜視図である。

【図4】同パチンコ機の背面図である。

【図5】同パチンコ機の遊技盤の正面図である。

【図6】同パチンコ機の遊技盤の平面断面図である。

【図7】同パチンコ機の遊技盤を構成する可動演出手段及び後部支持部材の正面図である

10

20

。

【図8】同パチンコ機の遊技盤を構成する透明本体板及びガイドレールの斜視図である。

【図9】同パチンコ機の遊技盤に配置されている遊技部品及びそれらに貼付されている装飾シールの斜視図である。

【図10】同パチンコ機の注意喚起シールS1～S7の外観を示す図である。

【図11】同パチンコ機の注意喚起シールS1の版構成(A)とその配置(B)及び版毎の態様を示す図である。

【図12】同パチンコ機の装飾シールS11の版構成(A)とその配置(B)及び版毎の態様を示す図である。

【図13】同パチンコ機の装飾シールS12の版構成(A)とその配置(B)及び版毎の態様を示す図である。

30

【図14】同パチンコ機の装飾シールS13の版構成(A)とその配置(B)及び版毎の態様を示す図である。

【図15】同パチンコ機の装飾シールS14の版構成(A)とその配置(B)及び版毎の態様を示す図である。

【図16】同パチンコ機の装飾シールS15の版構成(A)とその配置(B)及び版毎の態様を示す図である。

【図17】同パチンコ機の遊技盤の要部拡大正面図である。

【図18】同パチンコ機の装飾シールS16における第1注意喚起情報表示部(a)及び第2注意喚起情報表示部(b)の外観を示す図である。

40

【図19】同パチンコ機の装飾シールS16の版構成(A)とその配置(B)及び版毎の態様を示す図である。

【図20】同パチンコ機の性能情報表示シールS21、外部端子情報表示シールS22、主基板情報表示シールS23の外観を示す図である。

【図21】同パチンコ機の性能情報表示シールS21の版構成(A)とその配置(B)及び版毎の態様を示す図である。

【図22】同パチンコ機の外部端子情報表示シールS22の版構成(A)とその配置(B)及び版毎の態様を示す図である。

【図23】同パチンコ機の主基板情報表示シールS23の版構成(A)とその配置(B)及び版毎の態様を示す図である。

50

【図 2 4】本発明の第 2 の実施形態に係るパチンコ機の後部支持部材の要部拡大正面図（a）、同じく要部拡大側部断面図（b）及び装飾シール S 1 7 における注意喚起情報表示部の外観を示す図（c）である。

【図 2 5】同パチンコ機の装飾シール S 1 7 の版構成（A）とその配置（B）及び版毎の態様を示す図である。

【図 2 6】本発明の第 3 の実施形態に係るパチンコ機の装飾シール S 1 1 の版構成（A）とその配置（B）及び版毎の態様を示す図である。

【図 2 7】装飾シールの外周に切欠部がある場合の糊部（外周領域）の配置例を示す図である。

【図 2 8】複数種類の注意喚起シールの一部について色配置を変更した例を示す図である。

10

【図 2 9】本発明の第 4 の実施形態に係るパチンコ機の全体正面図である。

【図 3 0】同パチンコ機の制御系のブロック図である。

【図 3 1】同パチンコ機の可動電飾装置の正面図である。

【図 3 2】同パチンコ機の可動電飾装置の分解斜視図である。

【図 3 3】同パチンコ機の可動電飾装置の正面断面図である。

【図 3 4】同パチンコ機の可動電飾装置の側面断面図である。

【図 3 5】同パチンコ機の可動電飾装置の L E D 列の説明図である。

【図 3 6】本発明の第 5 の実施形態に係るパチンコ機の可動電飾装置の正面図である。

【図 3 7】同パチンコ機の可動電飾装置の正面断面図である。

20

【図 3 8】同パチンコ機の可動電飾装置の側面断面図である。

【図 3 9】同パチンコ機の可動電飾装置の L E D 列の説明図である。

【図 4 0】本発明の第 6 の実施形態に係るパチンコ機の可動電飾装置の正面断面図である。

【図 4 1】同パチンコ機の可動電飾装置の L E D 列の説明図である。

【発明を実施するための最良の形態】

【0 0 0 8】

以下、発明の実施形態を図面に基づいて詳述する。図 1～図 2 3 は本発明をパチンコ機に採用した第 1 の実施形態を例示している。図 1 及び図 2 において、遊技機本体 1 は、外枠 2 と、この外枠 2 の前側に配置された前枠 3 とを備えている。前枠 3 は、左右方向一端側、例えば左端側に配置された上下方向の第 1 ヒンジ 4 を介して外枠 2 に開閉自在及び着脱自在に枢着されており、左右方向における第 1 ヒンジ 4 と反対側、例えば右端側に設けられた施錠手段 5 によって外枠 2 に対して閉状態で施錠可能となっている。

30

【0 0 0 9】

前枠 3 は、内枠 6 と、その内枠 6 の前側に配置されたガラス扉 7 とを備えている。ガラス扉 7 は、左右方向一端側、例えば左端側に配置された上下方向の第 2 ヒンジ 8 を介して内枠 6 に開閉自在及び着脱自在に枢着されており、施錠手段 5 によって内枠 6 に対して閉状態で施錠可能となっている。

【0 0 1 0】

外枠 2 は、図 2 に示すように左右一対の縦枠材 2 a, 2 b と上下一対の横枠材 2 c, 2 d とで矩形状に形成されている。外枠 2 の前側下部には、合成樹脂製の前カバー部材 9 が、下横枠材 2 d の前縁に沿って左右の縦枠材 2 a, 2 b の前側下部を連結するように装着されている。前カバー部材 9 は、左右の縦枠材 2 a, 2 b よりも前側に突出しており、その上側に内枠 6 が配置されている。また外枠 2 には、第 1 ヒンジ 4 を構成する外枠上ヒンジ金具 1 1 が例えば左上部に、同じく外枠下ヒンジ金具 1 2 が左下部における前カバー部材 9 の上側に夫々配置されている。

40

【0 0 1 1】

内枠 6 は合成樹脂製で、前カバー部材 9 の上側で外枠 2 の前縁側に略当接可能な矩形状の枠部 1 3 と、この枠部 1 3 内の上部側に設けられた遊技盤装着部 1 4 と、枠部 1 3 内の下部側に設けられた下部装着部 1 5 とを一体に備えている。遊技盤装着部 1 4 には、遊技

50

盤 16 が前側から着脱自在に装着され、下部装着部 15 には、その前側に発射手段 17、下部スピーカ 18 等が配置されている。また内枠 6 には、第 1 ヒンジ 4 を構成する本体枠上ヒンジ金具 19 と第 2 ヒンジ 8 を構成する本体枠上ヒンジ金具 20 とが左上部に、第 1、第 2 ヒンジ 4、8 を構成する本体枠下ヒンジ金具 21 が左下部に夫々配置されている。

【0012】

ガラス扉（開閉扉）7 は、内枠 6 の前面側に対応する矩形状に形成された樹脂製の扉ベース 22 を備えている。この扉ベース 22 には、遊技盤 16 に形成された遊技領域 23 の前側に対応してガラス窓 24 の窓孔 24a が形成されると共に、窓孔 24a の周囲に複数（ここでは 4 つ）の上部スピーカ 25、枠第 1 可動体 26、枠第 2 可動体 27、送風手段 28 等の各種演出手段が配置されている。

【0013】

扉ベース 22 の上部前側には、窓孔 24a の外周の少なくとも一部、例えば窓孔 24a の上側と右側とに対応する逆 L 字型の部分にサイドユニット 30 が装着され、その他の一部、例えば窓孔 24a の左側には上装飾カバー 31 が装着されている。サイドユニット 30 は、図 2、図 3 等に応示するように、ガラス扉 7 を開いた状態で、特殊な工具を使用することなく、前枠 3 の裏側の固定ネジ 30a、固定レバー 30b 等进行操作することにより容易に着脱が可能となっている。通常、前枠 3 は複数の機種で共通に用いられ、機種毎に異なる遊技盤 16 をこの前枠 3 に装着することでその機種に特有の遊技性やデザインを実現しているが、本パチンコ機では、前枠 3 の前側の一部を、その他の部品に比べて容易に着脱可能なサイドユニット 30 とし、このサイドユニット 30 に、遊技盤 16 と一体感のあるデザインや特有の機能を持たせることにより、前枠 3 の大部分を共通化しつつも、機種毎のデザインや機能の自由度を高めることを可能としている。

【0014】

本実施形態のサイドユニット 30 には、枠第 1 可動体 26、枠第 2 可動体 27、送風手段 28 等が搭載されている。枠第 1 可動体 26 は、所定の立体形状（ここでは蝶の形状）に形成されており、図外の駆動手段の駆動により略前後方向へのスライド移動が可能となっている。枠第 2 可動体 27 は、所定の立体形状に形成されており、図外の駆動手段の駆動により略前後方向へのスライド移動が可能であると共に、遊技者による押し込み操作が可能となっている。送風手段 28 は、遊技者が枠第 2 可動体 27 を操作するタイミングで、その枠第 2 可動体 27 に触れている遊技者の手に向けて風を送ることが可能となっている。

【0015】

扉ベース 22 の下部前側には、内枠 6 の後側に配置された払い出し手段 32 から払い出された遊技球を貯留して発射手段 17 に供給する上皿 33、その上皿 33 が満杯のときの余剰球等を貯留する下皿 34、発射手段 17 を作動させるために操作する発射ハンドル 35 等が配置され、更に上皿 33、下皿 34 等を前側から略覆う下装飾カバー 36 が装着されている。下装飾カバー 36 は前向きの膨出状に形成されており、その上部側に、演出用の操作ボタン 37、その他の各種操作手段が設けられている。

【0016】

扉ベース 22 の背面側には、図 2 に示すように窓孔 24a を後側から略塞ぐガラスユニット 40 が着脱自在に装着されると共に、第 1、第 2 ヒンジ 4、8 側の縁部に沿って配置される上下方向のヒンジ端側補強板金 41a と、開閉端側の縁部に沿って配置される上下方向の開閉端側補強板金 41b と、窓孔 24a の下側に配置される左右方向の下部補強板金 41c とがねじ止め等により着脱自在に固定されている。また扉ベース 22 には、第 2 ヒンジ 8 を構成するガラス扉上ヒンジ金具 42a が左上部に、同じくガラス扉下ヒンジ金具 42b が左下部に夫々配置されている。

【0017】

また、下部補強板金 41c の背面側には、球送りユニット 43a、下皿案内ユニット 43b 等が装着されている。球送りユニット 43a は、上皿 33 内の遊技球を 1 個ずつ発射手段 17 に供給するためのもので、発射手段 17 の前側に対応して配置されている。下皿

10

20

30

40

50

案内ユニット４３ｂは、上皿３３が満杯となったときの余剰球、及び発射手段１７により発射されたにも拘わらず遊技領域２３に達することなく戻ってきたファール球を下皿３４に案内するためのもので、球送りユニット４３ａに隣接してその第１，第２ヒンジ４，８側に配置されている。

【００１８】

また図１～図３に示すように、ガラス扉７には情報表示用の貼付シートが複数貼付されている。即ち、サイドユニット３０の上面には当該サイドユニット３０の着脱作業に関する注意喚起シールＳ１が、サイドユニット３０の前面における送風手段２８の近傍には送風に関する注意喚起シールＳ２が、サイドユニット３０の前面における枠第２可動体２７の近傍には可動体の動作に関する注意喚起シールＳ３が、夫々貼付されている。また、下装飾カバー３６における操作ボタン３７の近傍には操作ボタン３７の操作等に関する注意喚起シールＳ４が貼付されている。また、ガラス扉７の背面の所定箇所、例えば下皿案内ユニット４３ｂ又はその近傍には金属部品によるケガに関する注意喚起シールＳ５が貼付されている。これら注意喚起シールＳ１～Ｓ５の詳細については後述する。

10

【００１９】

遊技盤１６は、ポリカーボネート等の透明な樹脂よりなる略一定板厚の透明本体板５０を備えたいわゆる透明遊技盤で、図５～図９等に示すように、その透明本体板５０に対して、ガイドレール５１、中央表示枠ユニット５３、始動入賞ユニット５４、大入賞ユニット５５、普通入賞ユニット５６、液晶表示手段（画像表示手段）５７、可動演出手段５８等の複数の遊技部品が装着されている。また、ユニット部品５３～５６上等の任意の位置に、普通図柄始動手段６１、第１特別図柄始動手段６２、第２特別図柄始動手段６３、第１大入賞手段６４、第２大入賞手段６５、複数（ここでは３つ）の普通入賞手段６６～６８、普通図柄表示手段６９、普通保留個数表示手段７０、第１特別図柄表示手段７１、第２特別図柄表示手段７２、複数（ここでは３つ）のアウト口７３ａ～７３ｃ、右打ち報知手段６０等が設けられている。

20

【００２０】

液晶表示手段５７、可動演出手段５８等は、後部支持部材７４を介して透明本体板５０の後側に配置されている。後部支持部材７４は、図６，図７に示すように、透明本体板５０よりも後方に透明本体板５０と略平行に配置された後壁部７５と、この後壁部７５の外周側から略前向きに延設された周壁部７６とを一体に備えており、周壁部７６の前縁側を透明本体板５０の背面側に当接させた状態でねじ止め等により固定されている。後壁部７５には略矩形状の開口部７５ａが形成されており、液晶表示手段５７は、表示画面５７ａを開口部７５ａに対応させた状態で後壁部７５の背面側に着脱自在に固定されている。

30

【００２１】

可動演出手段５８は、可動体７７と、この可動体７７を移動可能に支持する可動体案内手段７８と、可動体７７を駆動する駆動手段７９とを備えている。可動体７７は、左右方向の横長状に形成され、その前面側には機種名を示すロゴ等の任意の装飾（図示省略）が施されており、内部には前面側に多数のＬＥＤ８１ａを有するＬＥＤ基板８１が配置されている。

【００２２】

可動体案内手段７８は、可動体７７を液晶表示手段５７の表示画面５７ａの前面側に沿って所定方向（ここでは上下方向）に移動可能な状態で支持するもので、液晶表示手段５７の左右両側に沿って夫々上下方向の細長状に配置され、後部支持部材７４における後壁部７５の前面側に着脱自在に固定されている。可動体案内手段７８は、上下方向に配置された左右一対の案内レール８２を備え、それら各案内レール８２によって可動体７７の左右両端部が上下方向移動可能に支持されている。この可動体案内手段７８により、可動体７７は、液晶表示手段５７の上側の上部位置と、液晶表示手段５７の前側の下部位置との間で上下方向に移動可能であり、通常時は原点位置である上部位置に保持されている。

40

【００２３】

駆動手段７９は、例えばステッピングモータにより構成され、可動体案内手段７８の後

50

側に対応して後部支持部材 7 4 の背面側に着脱自在に固定されており、可動体 7 7 を所定の動作パターンに従って上下方向に移動させることが可能となっている。なお、可動体案内手段 7 8 の前側には、前面側に多数の LED 8 3 a を有する LED 基板 8 3 が配置されている。

【0024】

ガイドレール 5 1 は、発射手段 1 7 から発射された遊技球を案内するためのもので、遊技領域 2 3 の周囲を取り囲むように透明本体板 5 0 の前面側に略環状に配置されており、図 5 , 図 6 , 図 8 等に示すように複数、例えば 3 つの第 1 ~ 第 3 レール部材 5 1 a ~ 5 1 c で構成されている。第 1 ~ 第 3 レール部材 5 1 a ~ 5 1 c は、少なくともその本体部分は透明又は半透明の合成樹脂により形成されている。

10

【0025】

第 1 レール部材 5 1 a は、透明本体板 5 0 の下部左側から左縁部略中央、上縁部略中央を経て右上部に至る略弓形状に形成されており、透明本体板 5 0 と平行な前壁部 8 4 と、その前壁部 8 4 の周縁部から後向きに突設された略一定幅の周壁部 8 5 とを一体に備え、周壁部 8 5 の後端側を透明本体板 5 0 の前面に当接させた状態で透明本体板 5 0 に着脱自在に固定されている。第 1 レール部材 5 1 a は、遊技領域 2 3 側の周壁部 8 5 a が正面視略円弧状に形成されており、発射手段 1 7 によって発射された遊技球はこの周壁部 8 5 a に案内されて遊技領域 2 3 に向けて上昇する。なお、この周壁部 8 5 a の少なくとも一部分に金属板を配置してもよい。

【0026】

20

第 2 レール部材 5 1 b は、透明本体板 5 0 の前面側に略垂直に立設する前後方向一定幅の板状に形成され、透明本体板 5 0 の左上部から左下部にかけて第 1 レール部材 5 1 a の内側に並行するように略円弧状に配設されている。なお、第 1 レール部材 5 1 a と第 2 レール部材 5 1 b とで挟まれた部分が、発射手段 1 7 によって発射された遊技球を遊技領域 2 3 に案内する発射案内通路（球通路）8 6 となっている。なお、この第 2 レール部材 5 1 b の少なくとも一部を金属板で構成してもよい。

【0027】

第 3 レール部材 5 1 c は、第 1 レール部材 5 1 a の右上部側端部と第 2 レール部材 5 1 b の左下部側端部とを接続するように、透明本体板 5 0 の右縁部と下縁部とに沿う正面視略 L 型に形成されており、透明本体板 5 0 と平行な前壁部 8 7 と、その前壁部 8 7 の周縁部から後向きに突設された略一定幅の周壁部 8 8 とを一体に備え、周壁部 8 8 の後端側を透明本体板 5 0 の前面に当接させた状態で透明本体板 5 0 に着脱自在に固定されている。なお、遊技領域 2 3 側の周壁部 8 8 a の少なくとも一部分に金属板を配置してもよい。

30

【0028】

透明本体板 5 0 には、図 8 に示すように、遊技領域 2 3 に対応する領域内に一又は複数、ここでは 3 つの装着孔 5 0 a ~ 5 0 c が前後方向貫通状に形成されており、中央表示枠ユニット 5 3 及び大入賞ユニット 5 5 は装着孔 5 0 a に対して、始動入賞ユニット 5 4 は装着孔 5 0 b に対して、普通入賞ユニット 5 6 は装着孔 5 0 c に対して、夫々前側から着脱自在に固定されている。なお、中央表示枠ユニット 5 3 と大入賞ユニット 5 5 等、複数のユニット部品を一体に形成してもよい。また、複数のユニット部品（例えば中央表示枠ユニット 5 3 と大入賞ユニット 5 5 ）が別体であっても、それらを互いに一体化した上で装着孔 5 0 a ~ 5 0 c の何れかに装着するように構成してもよいし、装着孔 5 0 a ~ 5 0 c に対して別々に装着するように構成してもよい。

40

【0029】

透明本体板 5 0 には、前面側と背面側との少なくとも一方、ここでは背面側の所定領域に本体装飾部 8 9 が形成されている。この本体装飾部 8 9 は、カラーイラスト等よりなる二次元装飾で、透明本体板 5 0 の盤面に直接印刷することにより形成されているが、これを透明本体板 5 0 の背面側に設けることにより、球の擦れによる劣化を防止できる。この本体装飾部 8 9 は、少なくとも一部が透光性で、透明本体板 5 0 の後側に配置された LED 8 3 a（図 6 , 図 7）等の光を透過するようになっている。なお、この本体装飾部 8 9

50

を貼付シート上に形成し、透明本体板 50 の前面側及び／又は背面側に貼付してもよい。これにより、透明本体板 50 の再利用や複数機種での共通化が容易となる。

【0030】

中央表示枠ユニット 53 は、液晶表示手段 57 及び可動演出手段 58 の表示枠を構成するもので、図 5，図 6，図 9 等に示すように、後側の液晶表示手段 57 に対応する開口窓 91 が略中央に形成され、遊技領域 23 の略中央における上部側に配置されている。この中央表示枠ユニット 53 は、その略全体が透明な合成樹脂製で、透明本体板 50 の前面に沿って装着孔 50a の外側に配置され且つその前側を遊技球が通過可能な前面装着板 92 と、液晶表示手段 57 の前側における左右両側から上部側にわたる正面視略門形状に配置され且つ前面装着板 92 の内周側で前向きに突設された装飾枠 93 と、その装飾枠 93 の左右の下端部間に配置されるステージ 94 とを備えている。発射手段 17 により発射され、発射案内通路 86 を経て遊技領域 23 の上部側に進入した遊技球は、装飾枠 93 の頂部で左右に振り分けられ、中央表示枠ユニット 53 の左側の左流下経路 95a と右側の右流下経路 95b との何れかを流下する。

10

【0031】

中央表示枠ユニット 53 には、左流下経路 95a 側と右流下経路 95b 側との少なくとも一方側、例えば左流下経路 95a 側に、遊技球が流入可能なワープ入口 96 が設けられている。左流下経路 95a を流下中にワープ入口 96 に流入した遊技球は、ステージ 94 上で左右方向に自由に転動した後、遊技領域 23 の左右方向中央に対応して設けられた中央落下部 97 とそれ以外の部分との何れかから前側に落下する。

20

【0032】

中央表示枠ユニット 53 の下側には、左右方向の略中央に始動入賞ユニット 54 が、右側に大入賞ユニット 55 が、左側に普通入賞ユニット 56 が、夫々ガイドレール 51 の内側に沿って配置されている。始動入賞ユニット 54、大入賞ユニット 55、普通入賞ユニット 56 は、何れも略全体が透明な合成樹脂により形成されている。

【0033】

普通図柄始動手段 61 は、普通図柄表示手段 69 による普通図柄の変動表示を開始させるためのもので、右流下経路 95b 上に配置されている。この普通図柄始動手段 61 は、中央表示枠ユニット 53 上に設けられており、図 5，図 9 に示すように、前面装着板 92 の前側に突設されたゲート部 101 と、このゲート部 101 を通過する遊技球を検出する遊技球検出スイッチ 102 とを備えている。

30

【0034】

普通図柄表示手段 69 は、普通図柄を変動表示するためのもので、複数（2 個）の LED 69a，69b で構成されており、普通図柄始動手段 61 が遊技球を検出すること、即ち遊技球がゲート部 101 を通過し、遊技球検出スイッチ 102 がその遊技球を検出することを条件に、普通図柄を構成する 2 個の LED 69a，69b が普通変動中発光パターンで発光した後、普通図柄始動手段 61 による遊技球検出時に取得された普通乱数情報に含まれる当り判定乱数値が予め定められた当り判定値と一致する場合には当り態様で、それ以外の場合にははずれ態様で変動を停止する。普通図柄を構成する 2 個の LED 69a，69b は、それらの発光態様（例えば点灯／消灯）の組み合わせにより一又は複数の当り態様と一又は複数のはずれ態様とを表示可能である。なお本実施形態では、図 5，図 9 に示すように、普通図柄表示手段 69 は中央表示枠ユニット 53 における右側の装飾枠 93 上に配置されている。なお、普通図柄表示手段 69 を構成する LED 69a，69b は、発光態様によって情報を報知する報知用の発光体の一例である。

40

【0035】

また、普通図柄始動手段 61 による遊技球検出時に取得された普通乱数情報は、予め定められた上限保留個数、例えば 4 個を限度として保留記憶され、普通図柄の変動が可能になる毎に 1 個ずつ消化されて普通図柄の変動が行われる。普通乱数情報の記憶個数（普通保留個数）は、普通保留個数表示手段 70 等によって遊技者に報知される。普通保留個数表示手段 70 は、複数（4 個）の LED 70a～70d で構成されており、中央表示枠ユ

50

ニット53における右側の装飾枠93上に配置されている(図5, 図9)。なお、普通保留個数表示手段70を構成するLED70a~70dは、発光態様によって情報を報知する報知用の発光体の一例である。

【0036】

第1特別図柄始動手段62は、第1特別図柄表示手段71による図柄変動を開始させるためのもので、開閉手段を有しない非作動式入賞手段により構成されており、始動入賞ユニット54上に配置されている。始動入賞ユニット54には、図5, 図9に示すように、ステージ94の中央落下部97に対応してその下側に入賞樋105が前向き突出状に形成されており、第1特別図柄始動手段62は、入賞樋105に形成された上向き開口状の第1始動入賞口106と、この第1始動入賞口106に入賞した遊技球を検出する遊技球検出スイッチ107とを備えている。第1特別図柄始動手段62は、左流下経路95a側のワープ入口96からステージ94を経て入賞するルートが存在すること等により、右流下経路95bを流下してきた遊技球よりも左流下経路95aを流下してきた遊技球の方が高い確率で入賞可能となっている。第1始動入賞口106に遊技球が入賞すると、一入賞当り所定個数(例えば4個)の遊技球が賞球として払い出される。

10

【0037】

第2特別図柄始動手段63は、第2特別図柄表示手段72による図柄変動を開始させるためのもので、遊技球が入賞可能な開状態と入賞不可能(又は開状態よりも入賞困難)な閉状態とに変化可能な作動式入賞手段により構成されており、右流下経路95bにおける普通図柄始動手段61の下流側に配置されている。第2特別図柄始動手段63は、中央表示枠ユニット53上に配置されており、図5, 図9に示すように、前面装着板92に形成された第2始動入賞口108と、この第2始動入賞口108を開閉する可動部109と、第2始動入賞口108に入賞した遊技球を検出する遊技球検出スイッチ110とを備え、普通図柄表示手段69の変動後の停止図柄が当り態様となって普通利益状態が発生した場合に、所定の開閉パターンに従って可動部109が所定時間閉状態から開状態に変化するようにになっている。第2始動入賞口108に遊技球が入賞すると、一入賞当り所定個数(例えば2個)の遊技球が賞球として払い出される。

20

【0038】

第1特別図柄表示手段71は、第1特別図柄を変動表示可能な7セグLED等の発光体により構成されており、第1特別図柄始動手段62が遊技球を検出すること、即ち遊技球が第1始動入賞口106に入賞し、遊技球検出スイッチ107がその遊技球を検出することを条件に第1特別図柄を所定時間変動表示して、第1始動入賞口106への入賞時に取得された第1特別乱数情報に含まれる大当り判定乱数値が予め定められた大当り判定値と一致する場合には大当り態様で、小当り判定値と一致する場合には小当り態様で、それ以外の場合にははずれ態様で夫々停止するようになっている。第1特別図柄表示手段71の変動後の停止図柄が大当り態様となった場合には大当り状態が発生し、小当り状態となった場合には小当り状態が発生する。本実施形態では、第1特別図柄表示手段71は、中央表示枠ユニット53における左側の装飾枠93上に配置されている(図5, 図9)。なお、第1特別図柄表示手段71を構成する7セグLEDは、発光態様によって情報を報知する報知用の発光体の一例である。

30

40

【0039】

第2特別図柄表示手段72は、第2特別図柄を変動表示可能な7セグLED等の発光体により構成されており、第2特別図柄始動手段63が遊技球を検出すること、即ち遊技球が第2始動入賞口108に入賞し、遊技球検出スイッチ110がその遊技球を検出することを条件に第2特別図柄を所定時間変動表示して、第2始動入賞口108への入賞時に取得された第2特別乱数情報に含まれる大当り判定乱数値が予め定められた大当り判定値と一致する場合には大当り態様で、小当り判定値と一致する場合には小当り態様で、それ以外の場合にははずれ態様で夫々停止するようになっている。第2特別図柄表示手段72の変動後の停止図柄が大当り態様となった場合には大当り状態が発生し、小当り状態となった場合には小当り状態が発生する。本実施形態では、第2特別図柄表示手段72は、中央

50

表示枠ユニット 5 3 における右側の装飾枠 9 3 上に配置されている（図 5，図 9）。なお、第 2 特別図柄表示手段 7 2 を構成する 7 セグ LED は、発光態様によって情報を報知する報知用の発光体の一例である。

【0040】

また、第 1，第 2 特別図柄表示手段 7 1，7 2 による第 1，第 2 特別図柄の変動時には、これと並行して液晶表示手段 5 7 上で演出図柄 1 1 1 による図柄変動表示が行われる。演出図柄 1 1 1 は、図 5 に示すように、数字図柄その他の複数の図柄で構成される図柄列を複数（ここでは左右方向に 3 つ）備えており、またそれら各図柄列を構成する各図柄は、1～8 等の数字、その他で構成される図柄本体部 1 1 1 a と、この図柄本体部 1 1 1 a に付随するキャラクタその他の装飾部 1 1 1 b との結合で構成されている。なお演出図柄 1 1 1 は、拡大又は縮小、表示位置の変更、装飾部 1 1 1 b の消去等、表示態様を任意に変化させることが可能である。

10

【0041】

演出図柄 1 1 1 は、第 1，第 2 特別図柄の変動開始と略同時に所定の変動パターンに従って図柄列毎に縦スクロール等による変動を開始すると共に、所定の有効ライン上の停止図柄が所定態様となるように第 1，第 2 特別図柄の変動停止と略同時に最終停止する。なお演出図柄 1 1 1 では、有効ライン上の全ての停止図柄が同じ場合が大当たり演出態様、それ以外が小当たり演出態様又ははずれ演出態様となっており、第 1，第 2 特別図柄が大当たり態様、小当たり態様、はずれ態様となる場合には第 1，第 2 特別図柄は大当たり演出態様、小当たり演出態様、はずれ演出態様となる。

20

【0042】

また、第 1，第 2 特別図柄始動手段 6 2，6 3 への入賞時に取得された第 1，第 2 特別乱数情報は、夫々予め定められた上限保留個数、例えば各 4 個を限度として保留記憶され、第 1，第 2 特別図柄の変動が可能になった時点で第 2 特別図柄側の保留記憶が 1 以上の場合にはその第 2 特別図柄の保留記憶を 1 個消化して第 2 特別図柄の変動を行い、第 1 特別図柄側の保留記憶のみが 1 以上の場合にはその第 1 特別図柄の保留記憶を 1 個消化して第 1 特別図柄の変動を行う。このように本実施形態では、第 1 特別図柄と第 2 特別図柄とが共に変動中になることはなく、また第 1 特別図柄側と第 2 特別図柄側との両方に保留記憶がある場合には、第 2 特別図柄の変動を優先的に行うようになっている。

【0043】

本実施形態の場合、遊技者は後述する特別遊技状態中以外の通常遊技状態中は第 1 特別図柄始動手段 6 2 を狙って左打ちをし、特別遊技状態中（時短状態中）は普通図柄始動手段 6 1 及び第 2 特別図柄始動手段 6 3 を狙って右打ちをするため、通常遊技状態中は主として第 1 特別図柄が変動し、特別遊技状態中（時短状態中）は主として第 2 特別図柄が変動する。なお本実施形態では、右打ち報知手段 6 0 により、遊技者が右打ちをすべき右打ち期間中（特別遊技状態中、大当たり状態中等）であることを報知可能となっている。右打ち報知手段 6 0 は、1 つの LED 6 0 a で構成され、中央表示枠ユニット 5 3 における右側の装飾枠 9 3 上に配置されており（図 5，図 9）、右打ち期間中に点灯、それ以外の期間中は消灯するように構成されている。なお、右打ち報知手段 6 0 を構成する LED 6 0 a は、発光態様によって情報を報知する報知用の発光体の一例である。

30

40

【0044】

保留記憶されている第 1，第 2 特別乱数情報の個数（第 1，第 2 特別保留個数）は、液晶表示手段 5 7 等によって遊技者に報知される。液晶表示手段 5 7 には、図 5 に示すように、第 1，第 2 特別保留個数を示す第 1，第 2 保留画像 X 1～X 4，Y 1～Y 4，変動中保留画像 Z を表示可能となっている。即ち、第 1，第 2 特別図柄始動手段 6 2，6 3 が遊技球を検出することに基づいて第 1，第 2 特別保留個数が増加した場合に、第 1，第 2 保留画像 X 1～，Y 1～を液晶表示手段 5 7 上に 1 個追加表示し、また第 1，第 2 特別図柄表示手段 7 1，7 2 による第 1，第 2 特別図柄の新たな変動が開始することに基づいて第 1，第 2 特別保留個数が減少した場合に、例えば変動中保留画像 Z を消去し、第 1，第 2 保留画像 X 1～，Y 1～を待ち行列の前側（例えば画面右側）に向けて 1 個分ずつシフト

50

すると共に、押し出された先頭の第1, 第2保留画像X1, Y1を例えば所定位置まで移動させて新たな変動中保留画像Zに変化させるようになっている。

【0045】

また、第1, 第2特別図柄始動手段62, 63による遊技球検出に基づいて行われる大当たり判定(乱数抽選)で大当たりとなる確率(大当たり確率)には低確率と高確率の2種類があり、後述する特別遊技状態のうちの確変状態中は高確率に、それ以外は低確率に夫々設定される。

【0046】

また、大当たり判定結果がはずれとなった場合には一又は複数種類のはずれの何れかを選択し、大当たり判定結果が小当たりとなった場合には一又は複数種類の小当たりの何れかを選択し、大当たり判定結果が大当たりとなった場合には一又は複数種類の大当たり(例えば確変大当たり、非確変大当たりの2種類)の何れかを選択する。ここで、確変大当たりは、大当たり状態の終了後に特別遊技状態として確変状態を発生させることとなる大当たり、非確変大当たりは、大当たり状態の終了後に特別遊技状態として例えば時短状態を発生させることとなる大当たりで、それらの振り分けは大当たり図柄乱数値等に基づいて行われる。

【0047】

時短状態中は、第1, 第2特別図柄に関して第1, 第2特別図柄表示手段71, 72の変動時間が通常変動時間よりも短い短縮変動時間に切り換えられる他、普通図柄に関して、当たり確率が通常確率から高確率へ、変動時間が通常変動時間から短縮変動時間へ、普通利益状態における第2特別図柄始動手段63の開閉パターンが通常開閉パターン(例えば0.2秒×1回開放)から特別開閉パターン(例えば2秒×3回開放)へ、夫々切り換えられるようになっている。なお、時短状態は大当たり状態が終了した時点で開始し、例えば第1, 第2特別図柄が所定回数(例えば50回)変動するか、それまでに次の大当たり遊技が発生した時点で終了する。また確変状態中は、例えば時短状態と同様の切り換えに加えて、大当たり確率が低確率から高確率に切り換えられるようになっている。なお、確変状態は大当たり状態が終了した時点で開始し、例えば次の大当たり状態が発生した時点で終了する。

【0048】

第1大入賞手段64は、開閉部材112の動作によって遊技球が第1大入賞口64aに入賞可能な開状態と入賞不可能な閉状態とに変化可能な作動式入賞手段で、第1大入賞口64aに入賞した遊技球を検出する遊技球検出スイッチ113を備えており、第1, 第2特別図柄表示手段71, 72の変動後の停止図柄が大当たり態様となるか、後述するV入賞によって大当たり状態が発生した場合に、開閉部材112が一又は複数種類の大当たり開放パターンの何れかに従って開放するようになっている。第1大入賞口64aに遊技球が入賞すると、一入賞当たり所定個数(例えば14個)の遊技球が賞球として払い出される。

【0049】

この第1大入賞手段64は、図5, 図9に示すように大入賞ユニット55における上部側に配置されており、右流下経路95b側で且つ普通図柄始動手段61及び第2特別図柄始動手段63の下流側に形成された第1傾斜転動路114の途中に第1大入賞口64aが配置されている。第1傾斜転動路114は、左右方向のうち、遊技領域23の内側(ここでは左側)に向けて傾斜する左下がりの傾斜状に形成されている。第1大入賞口64aは、第1傾斜転動路114に沿う細長状で、第1傾斜転動路114の底壁に上向き開口状に形成されている。

【0050】

開閉部材112は、第1傾斜転動路114に沿う左下がりの傾斜状に形成された略板状体で、図示しない開閉駆動手段の駆動により前後方向にスライド移動可能となっており、閉状態のときには遊技盤16の盤面よりも前側に突出して第1大入賞口64aを閉鎖するとともに上流側から流下してきた遊技球を第1傾斜転動路114の下流側(ここでは左側)に向けて案内し、開状態のときには遊技盤16の盤面よりも後側に退避して第1大入賞口64aを開放するようになっている。

【0051】

また、大入賞ユニット55における第1傾斜転動路114の上流端側には普通入賞手段66が配置されている。この普通入賞手段66は、遊技球が入賞可能な普通入賞口66aと、この普通入賞口66aに入賞した遊技球を検出する遊技球検出スイッチ115とを備えている。普通入賞口66aに遊技球が入賞すると、一入賞当り所定個数の遊技球が賞球として払い出される。

【0052】

第2大入賞手段65は、開閉部材116の動作によって遊技球が第2大入賞口65aに入賞可能な開状態と入賞不可能な閉状態とに変化可能な作動式入賞手段であって、図5に示すように、第2大入賞口65aに入賞した遊技球を検出する遊技球検出スイッチ117を備えており、第1、第2特別図柄表示手段71、72の変動後の停止図柄が小当り状態となって小当り状態が発生した場合に、開閉部材116が所定の小当り開放パターンに従って開放するようになっている。第2大入賞口65aに遊技球が入賞すると、一入賞当り所定個数（例えば3個）の遊技球が賞球として払い出される。

【0053】

また第2大入賞手段65は、特定領域118aと、通常領域118bと、第2大入賞口65aに入賞した遊技球を特定領域118aと通常領域118bとに振り分ける可動式の振り分け手段119と、特定領域118aに流入した遊技球を検出する特定遊技球検出スイッチ120aと、通常領域118bに流入した遊技球を検出する通常遊技球検出スイッチ120bとを備えている。第2大入賞口65aに入賞した遊技球は、遊技球検出スイッチ117によって検出された後、振り分け案内通路119aを流下して振り分け手段119に達する。そして振り分け手段119によって特定領域118aと通常領域118bとの何れかに案内され、特定遊技球検出スイッチ120aと通常遊技球検出スイッチ120bとの何れかによって検出された後、遊技盤16の後側に案内される。第2大入賞口65aに入賞した遊技球が振り分け手段119によって特定領域118a側に案内され、特定遊技球検出スイッチ120aがその遊技球を検出した場合（以下、V入賞という）には大当り状態が発生する。

【0054】

第2大入賞手段65は、図5に示すように大入賞ユニット55における第1大入賞手段64の下側に配置されており、第1傾斜転動路114の下流側（ここでは下側）に形成された第2傾斜転動路121の途中に第2大入賞口65aが配置されている。なお、第1傾斜転動路114は、その下流端側（左端側）で、右向きの第2傾斜転動路121と左向きの分岐路122とに分岐している。第1傾斜転動路114を通過した遊技球は、高い確率で第2傾斜転動路121側に流下し、分岐路122側に流下することは稀であるが、分岐路122側に流下した遊技球は、第1始動入賞口106等の入賞口に入賞するか、遊技領域23の最下流側、即ち遊技領域23の下部中央（ここでは第1特別図柄始動手段62の下側）に配置された第1アウト口73aを経て遊技盤16の後側に排出される。

【0055】

第2傾斜転動路121は、左右方向のうち、遊技領域23の外側（ここでは右側）に向けて傾斜する右下がりの傾斜状に形成されている。第2大入賞口65aは、第2傾斜転動路121に沿う細長状で、第2傾斜転動路121の底壁に上向き開口状に形成されている。

【0056】

開閉部材116は、第2傾斜転動路121に沿う右下がりの傾斜状に形成された略板状体で、図示しない開閉駆動手段の駆動により前後方向にスライド移動可能となっており、閉状態のときには遊技盤16の盤面よりも前側に突出して第2大入賞口65aを閉鎖するとともに上流側から流下してきた遊技球を第2傾斜転動路121の下流側（ここでは右側）に向けて案内し、開状態のときには遊技盤16の盤面よりも後側に退避して第2大入賞口65aを開放するようになっている。

【0057】

また、第2傾斜転動路121の下流端側（右端側）には第2アウト口73bが配置されている。第2アウト口73bは、第2大入賞手段65等とともに大入賞ユニット55に設けられており、第2傾斜転動路121を通過した遊技球は、この第2アウト口73bを経て遊技盤16の後側に排出される。

【0058】

また、普通入賞ユニット56には、図5、図9に示すように複数、例えば2つの普通入賞手段67、68が配置されるとともに、それら複数の普通入賞手段67、68の上流側に第3アウト口73cが配置されている。普通入賞手段67、68は、遊技球が入賞可能な普通入賞口67a、68aと、それら普通入賞口67a、68aに入賞した遊技球を検出する遊技球検出スイッチ123、124とを備えている。普通入賞口67a、68aに遊技球が入賞すると、一入賞当り所定個数の遊技球が賞球として払い出される。

10

【0059】

また図5、図9等に示すように、遊技領域23内に配置された中央表示枠ユニット53、始動入賞ユニット54、大入賞ユニット55、普通入賞ユニット56等には、それらの前面側に設けられた透明な被貼付部に、少なくとも一部に装飾が施された装飾シール（装飾用の貼付シートである装飾貼付シート）が貼付されている。

【0060】

即ち、中央表示枠ユニット53には、装飾枠93における上部、右部、左部の夫々前面側に透明な被貼付部131～133が形成されており、それら被貼付部131～133に、装飾シール（装飾貼付シート）S11～S13が夫々貼付されている。また、始動入賞ユニット54には、入賞樋105の前面側に透明な被貼付部134が形成されており、その被貼付部134に装飾シール（装飾貼付シート）S14が貼付されている。また大入賞ユニット55には、前面側に透明な被貼付部135が形成されており、その被貼付部135に装飾シール（装飾貼付シート）S15が貼付されている。なお、大入賞ユニット55には、被貼付部135の後側に、LED125aが複数配置されたLED基板125が装着されている。

20

【0061】

また普通入賞ユニット56には、前面側に透明な被貼付部136が形成されており、その被貼付部136に装飾シール（装飾貼付シート）S16が貼付されている。更に、遊技領域23の外側の所定位置、例えば第3レール部材51cの前面側には、当該遊技機の性能情報を表示する性能情報表示シールS21が貼付されている。それら装飾シールS11～S16、性能情報表示シールS21の詳細については後述する。

30

【0062】

また図4等に示すように、遊技盤16の裏側に配置された裏ケース138の背面側には、主制御基板141が格納された主制御基板ケース142、演出インターフェース基板143、液晶インターフェース基板144、液晶制御基板145、ROM基板146等が格納された演出基板ケース147が着脱自在に装着されている。

【0063】

また前枠3の裏側には、遊技盤16の裏側を開閉自在に覆う裏カバー148が着脱自在に装着されると共に、その上側に遊技球タンク149とタンクレール150とが、左右一側に払い出し手段32と払出通路151とが夫々装着されており、遊技球が第1大入賞口64a等の入賞口に入賞したとき、又は図外の自動球貸し機から球貸し指令があったときに、遊技球タンク149内の遊技球をタンクレール150経由で払い出し手段32により払い出し、その遊技球を払出通路151経由で上皿33に案内するようになっている。なお、裏カバー148は、透明な合成樹脂製で、演出基板ケース147の略全体と主制御基板ケース142の上部側の一部分とを後側から覆うように配置されている。また、タンクレール150の上側には、各種信号を外部のホール側コンピュータ等に出力するための複数の外部端子152を備えた外部端子基板152aが配置されている。

40

【0064】

また、前枠3の裏側下部、即ち下部装着部15の裏側には基板装着台153が配置され

50

ており、この基板装着台 1 5 3 の背面側に、電源基板 1 5 4 が格納された電源基板ケース 1 5 5、払出発射制御基板 1 5 6 が格納された払出発射基板ケース 1 5 7 が夫々着脱自在に装着されている。

【0065】

また、前枠 3 の裏側には、情報表示用の貼付シートが複数貼付されている。即ち、外部端子基板 1 5 2 a の近傍の例えば背面側には、外部端子 1 5 2 の情報を表示する外部端子情報表示シール S 2 2 が貼付されている。また、裏カバー 1 4 8 の背面側には裏カバーの開放等に関する注意喚起シール S 6 が、電源基板ケース 1 5 5 の背面側には高温に関する注意喚起シール S 7 が夫々貼付されている。また、主制御基板ケース 1 4 2 の背面側には基板管理番号や基板開封情報を表示する主基板情報表示シール S 2 3 が貼付される等、各基板ケースには情報表示用の貼付シートが貼付されている。

10

【0066】

続いて、当該遊技機の各部に貼付されている貼付シートについてその詳細を説明する。まず、情報表示用の貼付シートである注意喚起シール S 1 ～ S 7 について説明する。

【0067】

注意喚起シール（注意喚起情報貼付シート）S 1 ～ S 7 は、注意喚起情報を表示するので、図 10 に示すように、対象者（遊技ホール担当者又は遊技者）の注意を引くとともに当該貼付シートが注意を喚起するものであることを示すための第 1 表示部 a 1 と、注意すべき内容を示す第 2 表示部 a 2 とが設けられている（注意喚起情報を表示する注意喚起情報表示部）。第 1 表示部 a 1 は、背景が黄色で、黒色の文字等が表示されており、第 2 表示部 a 2 は、背景が黒色で、白色の文字等が表示されている。第 1 表示部 a 1 には、第 1 注意記号 s 1 と第 2 注意記号 s 2 とが表示されている。第 1 注意記号 s 1 は、黒色べた塗りの三角形の中に「！」の抜き文字（背景と同じ黄色）が配置された構成となっている。第 2 注意記号 s 2 は、黒色のゴシック体よりなる「注意」の文字で構成されている。なお、注意喚起シール S 1，S 5，S 6，S 7 は遊技ホール担当者を対象とし、その他の注意喚起シール S 2，S 3，S 4 は遊技者を対象としている。

20

【0068】

注意喚起シール S 1 は、サイドユニット 30 の着脱作業に関して注意喚起を行うためのもので、図 1 ～ 図 3 等に示すようにサイドユニット 30 の所定位置、例えば上面（透光性を有しない被貼付部）に貼付されており、図 10（A）に示すように、横長の略矩形状に形成されるとともに上辺に沿って一定幅の領域が第 1 表示部 a 1、その下側の領域が第 2 表示部 a 2 となっている。なお、この注意喚起シール S 1 を貼付する所定位置は、サイドユニット 30 の着脱作業時に視認可能な位置であって、遊技中の遊技者が正面視で視認不能または視認困難な位置であることが望ましい。第 1 表示部 a 1 には、第 1 注意記号 s 1 が左右両端側に 1 個ずつ表示され、それらの間の中央部に第 2 注意記号 s 2 が表示されている。また第 2 表示部 a 2 には、ゴシック体よりなる「ユニット交換作業時に側面の指挟みに注意して下さい。指挟み注意！」の横書き文字と、指挟みを示す絵記号とが何れも白色で表示されている。

30

【0069】

注意喚起シール S 2 は、送風に関して注意喚起を行うためのもので、図 1 に示すようにサイドユニット 30 の前面側における送風手段 28 の近傍であって遊技者が視認可能な位置（透光性を有しない被貼付部）に貼付されており、図 10（B）に示すように、横長の略矩形状に形成されるとともに左端側の所定幅の領域が第 1 表示部 a 1、その右側の領域が第 2 表示部 a 2 となっている。第 1 表示部 a 1 には、第 1 注意記号 s 1 と第 2 注意記号 s 2 とが左右に隣接した状態で表示されている。また第 2 表示部 a 2 には、ゴシック体よりなる「風が出ますので注意してください。」の横書き文字が白色で表示されている。

40

【0070】

注意喚起シール S 3 は、可動体の動作及び操作に関して注意喚起を行うためのもので、図 1 に示すようにサイドユニット 30 の前面側における枠第 2 可動体 27 の近傍であって遊技者が視認可能な位置（透光性を有しない被貼付部）に貼付されており、図 10（C）

50

に示すように、被貼付部の形状に合わせて縦長の略矩形状に形成されるとともに上部側領域が第1表示部a1、その下側の領域が第2表示部a2となっている。第1表示部a1には、第1注意記号s1と第2注意記号s2とが上下に隣接して表示されている。また第2表示部a2には、ゴシック体よりなる「ギミックの飛び出しや突然の可動や振動に注意して下さい。手や指の挟み込みに注意して下さい。」の縦書き文字が白色で表示されている。

【0071】

注意喚起シールS4は、上部の可動体の動作や操作ボタン37の操作に関して注意喚起を行うためのもので、図1に示すように下装飾カバー36における操作ボタン37の近傍であって遊技者が視認可能な位置（透光性を有しない被貼付部）に貼付されており、図10（D）に示すように、横長の略矩形状に形成されるとともに上辺に沿って一定幅の領域が第1表示部a1、その下側の領域が第2表示部a2となっている。第1表示部a1には、注意喚起シールS1と同様、第1注意記号s1が左右両端側に1個ずつ表示され、それらの間の中央部に第2注意記号s2が表示されている。また第2表示部a2には、ゴシック体よりなる「頭上役物の飛び出しに注意して下さい。破損の恐れがありますので、ボタンを強く押さないで下さい。」の横書き文字が白色で表示されている。

【0072】

注意喚起シールS5は、金属部品によるケガに関して注意喚起を行うためのもので、図2に示すようにガラス扉7の背面の所定箇所、例えば下皿案内ユニット43b又はその近傍に貼付されており、図10（E）に示すように、横長の略矩形状に形成されるとともに上辺に沿って一定幅の領域が第1表示部a1、その下側の領域が第2表示部a2となっている。第1表示部a1には、注意喚起シールS1等と同様、第1注意記号s1が左右両端側に1個ずつ表示され、それらの間の中央部に第2注意記号s2が表示されている。また第2表示部a2には、ゴシック体よりなる「金属部品のエッジに注意して下さい。」の横書き文字が白色で表示されている。

【0073】

注意喚起シールS6は、危険部位や裏カバー148の開放に関して注意喚起を行うためのもので、図4に示すように前枠3の裏側の所定箇所、例えば裏カバー148の背面側に貼付されており、図10（F）に示すように、横長の略矩形状に形成されるとともに上辺に沿って一定幅の領域が第1表示部a1、その下側の領域が第2表示部a2となっている。第1表示部a1には、注意喚起シールS1等と同様、第1注意記号s1が左右両端側に1個ずつ表示され、それらの間の中央部に第2注意記号s2が表示されている。また第2表示部a2には、ゴシック体よりなる「感電、エッジに注意して下さい。裏カバーの開放に注意して下さい。」の横書き文字が白色で表示されている。

【0074】

注意喚起シールS7は、高温部位に関して注意喚起を行うためのもので、図4に示すように、所定温度（例えば50℃）以上の熱を発する電子部品を搭載する電源基板を収容する電源基板ケース155の背面側に貼付されており、図10（G）に示すように、横長の略矩形状に形成されるとともに上辺に沿って一定幅の領域が第1表示部a1、その下側の領域が第2表示部a2となっている。第1表示部a1には、注意喚起シールS1等と同様、第1注意記号s1が左右両端側に1個ずつ表示され、それらの間の中央部に第2注意記号s2が表示されている。また第2表示部a2には、ゴシック体よりなる「電源基板高温注意」の横書き文字が白色で表示されている。

【0075】

以上の注意喚起シールS1～S7は、外形形状、大きさ、表示内容やレイアウトは夫々異なるものの、基本的構成、即ち印刷の版数や使用される色数、糊の配置等については全て共通となっている。なお、これらの注意喚起シールをむやみに配置すると注意喚起の効果が薄れるため、例えば高温注意の注意喚起シールS7は所定温度以上となる部位を備える基板ケース等にのみ貼付し、それ以外の基板ケース等には貼付しないなど、注意喚起シールは真に必要な部位に絞って貼付することが望ましい。

【0076】

図11は、一例として注意喚起シールS1の基本的構成を示している。注意喚起シールS1は、図11(A)，(B)に示すように、PET、紙等の素材よりなる白色の本体シートに対して、その表面(上面)側に、シルク印刷等により黄色(Y版)、黒色(K版)の2版で印刷を行い、また裏面側にはその全面に糊を付着させた全面糊層(糊版)が設けられている。各版(第1～3版)の態様は図11(a)～(c)のようになっている。このように、注意喚起シールS1～S7は、印刷の版数が3、印刷による色数(生地色の白色は除く)が2で、全面糊層が採用されており、その全面が非透明で且つ非透光性を有するものとする。

【0077】

以上のように、注意喚起シールS1～S7は、部品を再利用する場合でも貼り替える可能性が低く、また注意喚起シールS1～S4は遊技者が、注意喚起シールS5～S7は遊技ホール担当者が夫々手で触れる可能性があるため、剥がしやすさよりも剥がれにくさ、及びコストを優先して全面糊層を採用している。なお、その意味では粘着力が比較的強い糊を使用することが望ましい。また、注意喚起シールS1～S7は透明部分を有していないため、透明度の高い糊を使用する必要はなく、その点でもコストを抑えることができる。

【0078】

また、注意喚起シールS1～S7はあくまでも注意喚起を目的とするものであって、装飾を目的とするものではないから、色数や版数をなるべく少なくしてコストを抑えつつ、黒色と黄色／白色のコントラストによって人の目に付きやすくしている。また、複数(ここでは全て)の注意喚起シールS1～S7で使用する色数及び色の種類(黄色、黒色、白色)を共通化し、また共通の記号(第1注意記号s1及び第2注意記号s2)を使用し、しかもその色の組合せ(黄色、黒色、白色)を他の種類の貼付シート(後述する特定装飾貼付シートは除く)では使用しないことにより、注意喚起シールであることが一目で分かるようにしている。また、注意喚起シールS1～S7では、全体の色々の組合せ(黄色、黒色、白色)だけでなく、第1表示部a1と第2表示部a2とに分けている点や、第1、第2表示部a1，a2における色配置についても共通化している。なお、第1表示部a1には第1、第2注意記号s1，s2のうちの何れか一方、例えば第1注意記号s1のみを表示してもよい。

【0079】

続いて、装飾用の貼付シート(装飾貼付シート)である装飾シールS11～S16について説明する。なお図5，図9に示すように、装飾シールS11～S16は全て遊技盤16における遊技領域23内に配置されている。

【0080】

装飾シールS11は、図9に示すように中央表示枠ユニット53における装飾枠93の上部前面側に形成された無色透明の被貼付部131に貼付されている。この装飾シールS11は、図12(A)，(B)に示すように、PET等の素材よりなる無色透明の本体シートに対して、その裏面(底面)側に、シルク4版(CMYKカラー)＋シルク白(100%)版＋糊版による印刷が施されている。このように、装飾シールS11は、印刷の版数が6、印刷による色数が5となっている。

【0081】

第1～4版は、夫々シアン(C)、マゼンタ(M)、黄色(Y)、黒色(K)で、それら三原色＋黒色によってフルカラーのイラストが形成されている。もちろん、三原色のみで黒色を表現する場合には第4版(黒色)は省略してもよいが、三原色のみでは完全な黒色を表現することはできないので、独立した黒色の版を用いることが望ましい。

【0082】

装飾シールS11に描かれているイラスト(装飾)は、図12(a)に示すように、平地とそこに生える樹木及びその後ろの山々よりなる第1装飾部161と、空に浮かぶ太陽とその両側の「SUN」の文字よりなる第2装飾部162とで構成されており、空にあた

10

20

30

40

50

る部分については、第2装飾部162を除き、装飾が施されていない非装飾部163となっている。

【0083】

第5版は、白（100%）により装飾の裏側から白打ちを行うもので、図12（b）に示すように、その領域は第1装飾部161の領域と一致しており、第2装飾部162、非装飾部163の領域には白打ちが行われなくなっている。この白100%による白打ちを行うと、その領域（ここでは第1装飾部161に対応する領域）は光を殆ど通さない状態（遮光率90%以上）となる。このように、白100%による白打ちが施された領域は、僅かな透光性を有しているものの、実質的に光を通さないものとして差し支えないので、本実施形態では非透光性（即ち遮光版）として説明する。この白打ちが行われ

10

【0084】

第6版は糊版で、この装飾シールS11の糊層は、図12（c）に示すように、糊が付着している糊部164と糊が付着していない糊なし部165とを有する部分糊層となっている。また糊部164は、透明シートの外周に沿う略一定幅の外周領域164a（図12（c）における一点鎖線の外側の領域）と、装飾が施された装飾部（第1装飾部161及

20

【0085】

このように装飾シールS11では、外周に沿う外周領域164aと、装飾が施された装飾部161、162に対応する装飾領域164b（非透明部でもある）とを糊部164とし、それ以外の部分を糊なし部165とした部分糊層を採用しているため、糊の粘着力が同じでも、全面糊層を採用する場合と比較して全体としての貼付強度を抑制でき、また外周領域のみに糊部を設ける場合と比較して貼付の安定感を高めることができ、貼付シートの貼付強度を一定以上に保った上で、中央表示枠ユニット53を再利用する際の貼り替え時の作業性を高めることが可能である。また、外周領域164aを除き、非装飾部や透明部には糊が付着しないため、非装飾部、透明部の透光性、透明度を高く維持できる。

30

【0086】

装飾シールS12は、図9に示すように中央表示枠ユニット53における装飾枠93の右部前面側に形成された無色透明の被貼付部132に貼付されている。この装飾シールS12は、図13（A）、（B）に示すように、PET等の素材よりなる無色透明の本体シートに対して、その裏面（底面）側に、シルク4版（CMYKカラー）＋シルク白（100%）版＋黒押さえ版＋シルク白（50%）版＋糊版による印刷が施されており、更に第5版（シルク白100%）と第6版（黒押さえ）との間にはホログラムが配置されている。このように、装飾シールS12は、印刷の版数（ホログラムは含まない）が8、印刷による色数が6（シルク4版の黒色と黒押さえの黒色を同色、白100%と白50%を異なる色とした場合）となっている。

40

【0087】

第1～4版は、夫々シアン（C）、マゼンタ（M）、黄色（Y）、黒色（K）で、それら三原色＋黒色によってフルカラーのイラストが形成されている。装飾シールS12に描かれているイラスト（装飾）は、図13（a）に示すように、子供、蝶、トンボ、樹木よりなる第1装飾部171と、それらの背景部分である第2装飾部172とで構成されている。

【0088】

また、第1装飾部171の領域内には、装飾が施されていない非装飾部173～175が設けられている。非装飾部（発光部）173は、普通図柄表示手段69を構成するLE

50

D（報知用の発光体）69a, 69b、普通保留個数表示手段70を構成するLED（報知用の発光体）70a～70dに対応するもので、互いに近接した状態で配列された所定個数（6個）の円形領域で構成されている。非装飾部（発光部）174は、第2特別図柄表示手段72を構成する7セグLED（報知用の発光体）に対応するもので、1つの長方形領域で構成されている。非装飾部（発光部）175は、右打ち報知手段60を構成するLED（報知用の発光体）60aに対応するもので、1つの三角形領域で構成されている。

【0089】

第5版及び第7版は、装飾の裏側から白打ちを行うもので、第5版は100%の白色が、第7版は50%の白色が用いられる。第5版（白打ち100%）の領域は、図13（b）に示すように非装飾部173～175を除く第1装飾部171の領域と一致しており、非装飾部173～175及び第2装飾部172の領域には100%の白打ちが行われないうになっている。この白（100%）による白打ちを行うと、その領域は光を殆ど通さない非透光性を示すものとする。第7版（白打ち50%）の領域は、図13（d）に示すように非装飾部（発光部）173～175の領域と一致している。この白（50%）による白打ちを行うと、その領域（非装飾部173～175）は透光性を有するが不透明となる（透光部、非透明部）。このように、第5版（白打ち100%）と第7版（白打ち50%）とは、同一色（白色）で透光率が異なっている。

【0090】

第6版は、ホログラムの定着及び遮光用の黒押さえ版（遮光版）で、図13（c）に示すように非装飾部173～175を除く全領域に対応している。なお、ホログラムの層は転写等の任意の手法で形成されるが、非装飾部173～175に対応する領域については剥離されるようになっている。このように、装飾シールS12では略全面が非透光部となっており、僅かな透光部である非装飾部173～175についても、その後側には報知用の発光体が配置されているため、透明本体板50の後側に配置されているLED83a等の発光手段からの光は殆ど透過しない。

【0091】

第8版は糊版で、この装飾シールS12の糊層は、図13（e）に示すように、糊が付着している糊部176と糊が付着していない糊なし部177とを有する部分糊層となっている。糊なし部177は、非装飾部173に対応する第1糊なし部177aと、非装飾部174に対応する第2糊なし部177bと、非装飾部175に対応する第3糊なし部177cとで構成され、それら第1～第3糊なし部177a～177c以外の全領域が糊部176となっている。

【0092】

第1～第3糊なし部177a～177cは、夫々非装飾部173～175よりも若干広い領域となっており、第1糊なし部177aは、非装飾部173に対応する6個の円形領域が互いに連結して1つの領域（発光領域）を形成し、第3糊なし部177cは、非装飾部175の三角形領域を含む1つの円形領域を形成している。なお、第1糊なし部177aは、非装飾部173に個別に対応する複数（6個）の独立した領域としてもよい。

【0093】

このように装飾シールS12では、普通図柄表示手段69を構成するLED69a, 69b、普通保留個数表示手段70を構成するLED70a～70d、第2特別図柄表示手段72を構成する7セグLED、右打ち報知手段60を構成するLED60aに対応する領域を非装飾部173～175とし、その非装飾部173～175の領域に白（50%）による白打ちを施しているため、後側のLEDを目隠ししつつそのLEDからの光は透過させることができ、見栄えと発光による報知機能とを両立させることが可能である。また、非装飾部173～175に対応する領域は糊なし部177a～177cとなっているため、糊による透光性の低下を防止できる。また、第5版と第6版との間にホログラム層を配置しているため、白打ち100%（第5版）が施されていない領域、即ち背景部分である第2装飾部172の領域がキラキラと光を複雑に反射して立体的に見え、それによって

10

20

30

40

50

第1装飾部171を浮かび上がらせるようになっている。

【0094】

なお、7セグLEDに対応する非装飾部174については白打ち（50%）を行わず無色透明としてもよい。また、非装飾部173～175以外の領域にも糊なし部を設けてもよく、例えば外周に沿う外周領域+ α （例えば白打ち100%の領域）を糊部としてもよい。

【0095】

装飾シールS13は、図9に示すように中央表示枠ユニット53における装飾枠93の左部前面側に形成された無色透明の被貼付部133に貼付されている。この装飾シールS13は、図14（A）、（B）に示すように、PET等の素材よりなる無色透明の本体シートに対して、その裏面（底面）側に、シルク4版（CMYKカラー）+シルク白（100%）版+シルク白（50%）版+糊版による印刷が施されている。このように、装飾シールS13は、印刷の版数が7、印刷による色数が6（白100%と白50%を異なる色とした場合）となっている。

【0096】

第1～4版は、夫々シアン（C）、マゼンタ（M）、黄色（Y）、黒色（K）で、それら三原色+黒色によってフルカラーのイラストが形成されている。装飾シールS13に描かれているイラスト（装飾）は、図14（a）に示すように、蝶、トンボ、クワガタ、樹木よりなる第1装飾部181と、それらの背景部分である第2装飾部182とで構成されている。また、第1装飾部181の領域内には、装飾が施されていない非装飾部183が設けられている。非装飾部（発光部）183は、第1特別図柄表示手段71を構成する7セグLED（報知用の発光体）に対応するもので、1つの長方形領域で構成されている。

【0097】

第5版及び第6版は、装飾の裏側から白打ちを行うもので、第5版は100%の白色が、第6版は50%の白色が用いられる。第5版（白打ち100%）の領域は、図14（b）に示すように非装飾部183を除く第1装飾部181の領域と一致しており、非装飾部183及び第2装飾部182の領域については100%の白打ちが行われなくなっている。この白（100%）による白打ちを行うと、その領域は光を殆ど通さない非透光性を示すものとする。第6版（白打ち50%）の領域は、図14（c）に示すように非装飾部183の領域（発光部）と一致している。この白（50%）による白打ちを行うと、その領域（非装飾部183）は、一定の透光性を有するが不透明となる（透光部、非透明部）。

【0098】

また、白100%、白50%の何れの白打ちも行われぬ第2装飾部182は透光性を有し（透光部）、色の種類や濃淡に応じて有色透明（透明部）又は有色不透明（非透明部）となる。これにより、透明本体板50の後側に配置されているLED83a等の発光手段からの光は、透明な被貼付部133等を透過した後、第2装飾部182を透過する。なお、7セグLED（発光部）に対応する非装飾部（特定透光部）183の透光率は、第2装飾部（非特定透光部）182の透光率よりも小さくなっている。

【0099】

第7版は糊版で、この装飾シールS13の糊層は、図14（d）に示すように、糊が付着している糊部184と糊が付着していない糊なし部185とを有する部分糊層となっている。また、糊部184は、透明シートの外周に沿う略一定幅の外周領域184a（図14（d）における一点鎖線の外側の領域）と、白打ち（100%）が施された非透光領域184bとを結合した領域に形成されている。なお、7セグLEDに対応する非装飾部183については、その少なくとも一部が透明シートの外周に沿う略一定幅の領域内にあったとしても、糊部184（外周領域184a）からは除外される。

【0100】

このように装飾シールS13では、外周に沿う外周領域184aと、白打ち（100%）が施された非透光領域184bとを糊部184とし、それ以外の部分を糊なし部185

10

20

30

40

50

とした部分糊層を採用しているため、糊の粘着力が同じでも、全面糊層を採用する場合と比較して全体としての貼付強度を抑制でき、また外周領域のみに糊部を設ける場合と比較して貼付の安定感を高めることができ、貼付シートの貼付強度を一定以上に保った上で、中央表示枠ユニット53を再利用する際の貼り替え時の作業性を高めることが可能である。また、外周領域184aを除き、透光領域である第2装飾部182には糊が付着しないため、透光部の透光性を高く維持できる。また、第1特別図柄表示手段71を構成する7セグLEDに対応する領域を非装飾部183とし、その非装飾部183の領域に白(50%)による白打ちを施しているため、後側のLEDを目隠ししつつそのLEDからの光は透過させることができ、見栄えと発光による報知機能とを両立させることが可能である。

【0101】

また、非装飾部183に対応する領域は糊なし部185となっているため、糊による透光性の低下を防止できる。なお、7セグLEDに対応する非装飾部183については白打ち(50%)を行わず(即ち第6版を省略)、無色透明としてもよい。

【0102】

装飾シールS14は、図9に示すように始動入賞ユニット54における入賞樋105の前面側に形成された無色透明の被貼付部134に貼付されている。この装飾シールS14は、図15(A)，(B)に示すように、PET等の素材よりなる無色透明の本体シートに対して、その裏面(底面)側に、シルクマゼンタ(M)版+シルク黒色(K)版+シルク白(100%)版+糊版による印刷が施されている。このように、装飾シールS14は、印刷の版数が4、印刷による色数が3となっている。

【0103】

第1版はマゼンタ(M)で、図15(a)に示すように透明シートの略中央に「夏」という文字を形成している。第2版は黒色(K)で、図15(b)に示すように「夏」という文字の縁取りを形成している。第3版は、白(100%)により装飾の裏側から白打ちを行うもので、図15(c)に示すように、その領域は第1，2版で形成された「夏」という文字の領域と一致している。この白(100%)による白打ちを行うと、その領域(ここでは「夏」の文字領域)は光を殆ど通さない非透光性を示すものとする。この白打ちが行われない周辺領域については無色透明のままとなる。

【0104】

第4版は糊版で、この装飾シールS14の糊層は、図15(d)に示すように糊なし部を有しない全面糊層となっている。この装飾シールS14は面積が小さく、面積の大きい装飾シールS11～S13等と同様の部分糊層(外周領域+α(非透光部、装飾部、非透明部))を採用する場合には、糊部の領域は全面糊層の場合とさほど変わらないにも拘わらずコストが高くなるため、費用対効果の観点から全面糊層を採用している。もちろん、外周領域+α(装飾部、非透光部、非透明部)を糊部とし、又は外周領域のみを糊部とする部分糊層を採用してもよい。また、装飾シールS14を貼付する被貼付部134の後側にLEDを配置してもよい。

【0105】

装飾シールS15は、図9に示すように大入賞ユニット55の前面側に形成された無色透明の被貼付部135に貼付されている。大入賞ユニット55内には、遊技球が通過する遊技球通過部(第2傾斜転動路121、振り分け案内通路119a、振り分け手段119等)と、遊技球が通過しない非通過部とが設けられており、装飾シールS15はそれら遊技球通過部と非通過部の前側に跨がって配置されている。なお、この装飾シールS15は、他の装飾シールS11～S14，S16とは異なり、その一部に一又は複数(ここでは4つ)の情報表示部を設けている(特定装飾貼付シート)。

【0106】

また装飾シールS15は、図16(A)，(B)に示すように、PET等の素材よりなる無色透明の本体シートに対して、その裏面(底面)側に、シルク4版(CMYKカラー)+シルク白(100%)版+糊版による印刷が施されている。このように、装飾シールS15は、印刷の版数が6、印刷による色数が5となっている。

10

20

30

40

50

【0107】

第1～4版は、夫々シアン（C）、マゼンタ（M）、黄色（Y）、黒色（K）で、それら三原色＋黒色によってフルカラーのイラスト（装飾）及び情報表示部が形成されている。装飾シールS15に描かれているイラスト（装飾）は、図16（a）に示すように、大入賞ユニット55における第2傾斜転動路121（図5参照）の前側の領域を挟んでその上側の第1装飾部191と下側の第2装飾部192とで構成されており、第2傾斜転動路（遊技球通過部）121の前側の領域は装飾が施されない第1非装飾部193となっている。第1装飾部191は、子供、蝶、樹木よりなる第1主要装飾部191aと、それらの背景部分である第1背景装飾部191bとで構成されている。第2装飾部192内には、振り分け案内通路（遊技球通過部）119a及び振り分け手段（遊技球通過部）119（図5参照）の前側に対応する第2非装飾部194と、「SUMMER VACATION」の文字を形成する文字装飾部192aとが設けられている。

10

【0108】

ここで、文字装飾部192aを構成する「SUMMER VACATION」の文字列については、前半の「SUMMER」と後半の「VACATION」に分けて上下二段で表示されているが、全体として非水平に羅列されている。即ち、前半の「SUMMER」の文字列は右下がりの傾斜状に羅列され、後半の「VACATION」の文字列については、第2非装飾部194によって途中で分断され、最初の「VA」は上側の「SUMMER」に沿って右下がりの傾斜状に、残りの「CATION」は第2非装飾部194の下側に沿って略水平に羅列されている。このように、文字装飾部192aを構成する文字列は情報の表示ではなく装飾が目的であるため、読みやすさよりもデザイン性を重視し、少なくとも一部が非水平となるように崩して配置されている。

20

【0109】

また装飾シールS15には、第1注意喚起情報表示部301、第2注意喚起情報表示部302、著作権情報表示部303、二次元コード表示部304の4つの情報表示部が、第2傾斜転動路121、振り分け案内通路119a等の遊技球通過部の前側を避けて夫々非通過部の前側に対応する所定位置（ここでは装飾シールS15の外周部近傍）に配置されている。

【0110】

第1注意喚起情報表示部301は、遊技ホール担当者に向けて、遊技盤16の着脱作業及び清掃作業に関して注意喚起を行うための第1注意喚起情報を表示するもので、図16（a）に示すようにここでは装飾シールS15の右下部、即ち第2傾斜転動路121（図5参照）の下側の第2装飾部192における右端部近傍に配置されている。第1注意喚起情報表示部301は、図18（a）に示すように正方形に近い略矩形状に形成されるとともに上辺に沿って一定幅の領域が第1表示部a1、その下側の領域が第2表示部a2となっている。なお、第1、第2表示部a1、a2については、注意喚起シールS1～S7と同様、対象者（遊技ホールの担当者等又は遊技者）の注意を引くとともに当該情報表示部が注意を喚起するものであることを示す部分が第1表示部a1、注意すべき内容を示す部分が第2表示部a2となっている。

30

【0111】

第1表示部a1は、背景が黄色で、黒色べた塗りの三角形の中に「！」の抜き文字（背景と同じ黄色）が配置された第1注意記号s1が左右両端側に1個ずつ表示され、それらの間の中央部に、黒色のゴシック体よりなる「注意」の文字で構成される第2注意記号s2が表示されている。また第2表示部a2は、背景が黒色で、白色のゴシック体よりなる「遊技盤を着脱する際は必ず電源をOFFにして下さい。清掃時には洗剤を使用しないで下さい。」の文字が横書き複数行で表示されている。ここで、第1注意喚起情報表示部301の注意喚起情報を構成する文字列は、装飾を目的とする文字装飾部192aと違って情報伝達を目的としているため、読みやすさを重視して略水平に羅列されている。以上のように、第1注意喚起情報表示部301では、使用する色数及び色の種類（黄色、黒色、白色）、使用する記号（第1注意記号s1及び第2注意記号s2）、第1表示部a1と第

40

50

２表示部 a ２とに分けている点、第 1，第 2 表示部 a 1，a 2 における色配置等を注意喚起シール S 1～S 7 と共通化することにより、注意喚起情報であることが一目で分かるようにしている。

【0112】

なお、第 1 注意喚起情報表示部 3 0 1 は、ガラス扉（開閉扉）7（図 1 7 に二点鎖線で示す）に設けられた窓孔 2 4 a よりも外側に配置されており、ガラス扉 7 を閉じた状態ではそのガラス扉 7 の一部に隠れて前側から視認できず、ガラス扉 7 を開いた状態で前側から視認可能となっている。この第 1 注意喚起情報表示部 3 0 1 は、遊技者向けではなく遊技ホール担当者向けの注意喚起情報を表示するものであり、しかもその注意喚起情報はガラス扉 7 を開いた状態で行う遊技盤 1 6 の着脱作業等に関するものであるため、上記のよう

10

【0113】

第 2 注意喚起情報表示部 3 0 2 は、遊技者に向けて、LED 等の光の凝視に関して注意喚起を行うための第 2 注意喚起情報を表示するもので、図 1 6（a）に示すようにここでは装飾シール S 1 5 の下部、即ち第 2 傾斜転動路 1 2 1（図 5 参照）の下側の第 2 装飾部 1 9 2 における下端部中央付近に配置されている。第 2 注意喚起情報表示部 3 0 2 は、図 1 8（b）に示すように下辺側が遊技領域 2 3 の外縁（下縁）に沿って傾斜状に形成された横長の略台形状に形成されるとともに、左端側の所定幅の領域が第 1 表示部 a 1、その右側の領域が第 2 表示部 a 2 となっている。

20

【0114】

第 1 表示部 a 1 は、背景が黄色で、黒色べた塗りの三角形の中に「！」の抜き文字（背景と同じ黄色）が配置された第 1 注意記号 s 1 と、黒色のゴシック体よりなる「注意」の文字で構成される第 2 注意記号 s 2 とが左右に隣接した状態で表示されている。また第 2 表示部 a 2 は、背景が黒色で、白色のゴシック体よりなる「長時間、同じ光を近距離から凝視しないようにしてください。」の文字が横書き複数行で表示されている。ここで、第 2 注意喚起情報表示部 3 0 2 の注意喚起情報を構成する文字列は、装飾を目的とする文字装飾部 1 9 2 a と違って情報伝達を目的としているため、読みやすさを重視して略水平に羅列されている。以上のように、第 2 注意喚起情報表示部 3 0 2 では、第 1 注意喚起情報表示部 3 0 1 と同様、使用する色数及び色の種類（黄色、黒色、白色）、使用する記号（第 1 注意記号 s 1 及び第 2 注意記号 s 2）、第 1 表示部 a 1 と第 2 表示部 a 2 とに分けている点、第 1，第 2 表示部 a 1，a 2 における色配置等を注意喚起シール S 1～S 7 と共通化することにより、注意喚起情報であることが一目で分かるようにしている。

30

【0115】

なお、第 2 注意喚起情報表示部 3 0 2 は、ガラス扉（開閉扉）7 に設けられた窓孔 2 4 a の内側に、その窓孔 2 4 a の縁部に沿って配置されており、ガラス扉 7 を閉じた状態でも、ガラス窓 2 4 を介して前側から視認可能となっている。この第 2 注意喚起情報表示部 3 0 2 は、遊技者向けの注意喚起情報を表示するものであるため、上記のように構成することで、遊技者が常時視認可能で、且つ見栄えの低下を最小限に抑えることができる。

40

【0116】

著作権情報表示部 3 0 3 は、当該遊技機に関する著作権情報を表示するためのもので、図 1 6（a）に示すようにここでは第 2 注意喚起情報表示部（特定情報表示部）3 0 2 の上側近傍に配置されている。著作権情報表示部 3 0 3 は、図 1 8（b）に示すように、「C」の文字を○で囲んだコピーライトマークと、当該遊技機で利用している著作物（例えばアニメ作品）や著作権者の名称等よりなる著作権情報とが、例えば黒色で横書きされている。ここで、著作権情報表示部 3 0 3 を構成する文字列（コピーライトマークを含む）は、装飾を目的とする文字装飾部 1 9 2 a と違って情報伝達を目的としているため、読みやすさを重視して略水平に羅列されている。なお、著作権情報表示部 3 0 3 を含む一定の領域は、背景が透明な透明背景領域 3 0 5 となっている。

50

【0117】

二次元コード表示部304は、当該装飾シールS15の種類を示す情報を構成するQRコード（登録商標）その他の二次元コードを表示するもので、図16（a）に示すようにここでは装飾シールS15の左端部、即ち第2傾斜転動路121（図5参照）の下側の第2装飾部192における左上端部近傍に配置されている。また、二次元コード表示部304は、白色の背景に対して二次元コードが黒色で表示されているが、その背景部分が二次元コードの周囲に拡張されており、その拡張部分が、装飾等を排除した空白部となっている。この空白部を設けることで、二次元コードの周囲への埋没を防止して視認性を確保できるとともに読み取りエラー等を防止できる。この二次元コード表示部304は、コードリーダーによる読み取りの正確性を担保するため、非透光性の領域（後述する白打ち領域）内に配置することが望ましい。

10

【0118】

なお、二次元コード表示部304は、読み取りを行う際に前側に遮蔽物がない位置に配置すればよく、読み取りを行うタイミング以外は前側に遮蔽物が存在して前側から視認できない位置に配置してもよい。例えば、大入賞ユニット55単体の状態（遊技盤16に装着される前の状態）で読み取りが行われる二次元コードの場合には、遊技盤16に装着した状態、或いはその遊技盤16を前枠3に装着した状態では前側から見えない位置に配置してもよい。また、遊技盤16単体の状態（前枠3に装着される前の状態）で読み取りが行われる二次元コードの場合には、遊技盤16を前枠3に装着した状態では前側から見えない位置に配置してもよい。また、ガラス扉7を開放した状態で読み取りが行われる二次元コードの場合には、ガラス扉7を閉じた状態ではそのガラス扉7の一部に隠れて前側から視認できず、ガラス扉7を開いた状態で前側から視認可能な位置に配置してもよい。

20

【0119】

第5版は、白（100%）により装飾の裏側から白打ちを行うもので、その領域は、図16（b）に示すように、第1主要装飾部191aと、第2装飾部192における第2非装飾部194、文字装飾部192a及び透明背景領域305を除く領域と一致している。また、文字装飾部192aに対応する領域は、大きさの違う任意形状（ここでは円形）のドットを所定パターンで分布させることにより白打ち密度に濃淡を持たせた半白打ち領域となっている。この白（100%）による白打ちを行うと、その領域は光を殆ど通さない非透光性を示すものとする。このように、第1注意喚起情報表示部301、第2注意喚起情報表示部302、二次元コード表示部304に対応する領域は、白（100%）による白打ちが行われることにより、非透明で且つ非透光性を有している。

30

【0120】

この白打ちが行われない領域については、第1非装飾部193及び第2非装飾部194は無色透明のままとなり、第1背景装飾部191bは透光性で色の種類や濃淡に応じて有色透明又は有色不透明となり、透明背景領域305は著作権情報表示部303の背景が無色透明となる。また、半白打ち領域である文字装飾部192aは、白打ちドット部分が非透光性となり、その隙間は、透光性で色の種類や濃淡に応じて有色透明又は有色不透明となる。このように、文字装飾部192aについては、透光率一定の白打ちを使用しつつ、実質的に透光率を変化させることが可能となる。

40

【0121】

このように装飾シールS15では、第2傾斜転動路121、振り分け案内通路119a及び振り分け手段119（何れも遊技球通過部）の前側に対応する第1非装飾部193及び第2非装飾部194は透明部となっており、前側からこの透明部を介して遊技球の通過を視認可能である。また、大入賞ユニット55の後部側に配置されているLED125a等の発光手段からの光は、透明な被貼付部135等を透過した後、第1背景装飾部191b、第1非装飾部193、第2非装飾部194等を透過する。

【0122】

なお、LED125aは、点発光を防止するべく、第1主要装飾部191aその他の非透光部に対応してその後側に配置することが望ましい。但し、それら非透光部のうち、第

50

1 注意喚起情報表示部 301、第2注意喚起情報表示部 302、二次元コード表示部 304等の情報表示部については、情報の読み取りやすさを重視するため、その後側にはLED（発光手段）125aを配置しないことが望ましい。

【0123】

第6版は糊版で、この装飾シールS15の糊層は、図16（c）に示すように糊が付着している糊部195と糊が付着していない糊なし部196とを有する部分糊層となっている。また糊部195は、透明シートの外周に沿う略一定幅の外周領域195a（図16（c）における一点鎖線の外側の領域）と、白打ち（100%）が施された領域（半白打ち領域である文字装飾部192aを除く）に対応する非透光領域195b（非透明部でもある）とを結合した領域に形成されている。なお、この装飾シールS15では、非透光領域195bは装飾領域の一部でもある。

10

【0124】

このように装飾シールS15では、外周に沿う外周領域195aと、白打ち（100%）が施された領域の一部に対応する非透光領域195bとを糊部195とし、それ以外の部分を糊なし部196とした部分糊層を採用しているため、糊の粘着力が同じでも、全面糊層を採用する場合と比較して全体としての貼付強度を抑制でき、また外周領域のみに糊部を設ける場合と比較して貼付の安定感を高めることができ、貼付シートの貼付強度を一定以上に保った上で、大入賞ユニット55を再利用する際の貼り替え時の作業性を高めることが可能である。また、外周領域195aを除き、透光領域である第1背景装飾部191bは糊なし部196に対応しているため、透光性を高く維持できる。また、第1、第2非装飾部193、194に対応する領域（透明部）についても外周領域195aを除いて糊なし部196となっているため、糊による透明度の低下を防止でき、第2傾斜転動路121、振り分け案内通路119a、振り分け手段119内の遊技球に対する視認性を高く維持できる。

20

【0125】

装飾シールS16は、図9に示すように普通入賞ユニット56の前面側に形成された無色透明の被貼付部136に貼付されている。この装飾シールS16は、図19（A）、（B）に示すように、PET等の素材よりなる無色透明の本体シートに対して、その裏面（底面）側に、シルク4版（CMYKカラー）+シルク白（100%）版+糊版による印刷が施されている。このように、装飾シールS13は、印刷の版数が6、印刷による色数が5となっている。

30

【0126】

第1～4版は、夫々シアン（C）、マゼンタ（M）、黄色（Y）、黒色（K）で、それら三原色+黒色によってフルカラーのイラストが形成されている。装飾シールS16に描かれているイラスト（装飾）は、図19（a）に示すように、てんとう虫、トンボよりなる第1装飾部201と、それらの背景部分である第2装飾部202とで構成されている。

【0127】

第5版は、白（100%）により装飾の裏側から白打ちを行うもので、図19（b）に示すようにその領域は第1装飾部201と一致している。この白（100%）による白打ちを行うと、その領域は光を殆ど通さない非透光性を示すものとする。この白打ちが行われない第2装飾部202の領域については、透光性で色の種類や濃淡に応じて有色透明又は有色不透明となる。

40

【0128】

第4版は糊版で、この装飾シールS16の糊層は、図19（c）に示すように糊なし部を有しない全面糊層となっている。この装飾シールS16は細長状で面積も比較的小さく、他の装飾シールS11～S13、S15等と同様の部分糊層（外周領域+α（非透光部、装飾部、非透明部））を採用する場合には、糊部の領域は全面糊層の場合とさほど変わらないにも拘わらずコストは高くなるため、費用対効果の観点から全面糊層を採用している。もちろん、外周領域+α（装飾部、非透光部、非透明部）を糊部とし、又は外周領域のみを糊部とする部分糊層を採用してもよい。また、装飾シールS16を貼付する被貼付

50

部 1 3 6 の後側に L E D を配置してもよい。

【 0 1 2 9 】

なお、以上の装飾シール S 1 1 ～ S 1 6 で使用する糊の粘着力は、上述した注意喚起シール S 1 ～ S 7、及び後述する性能情報表示シール S 2 1、外部端子情報表示シール S 2 2、主基板情報表示シール S 2 3 等で使用する糊の粘着力よりも弱くしている。これにより、張り替え作業がより容易になるとともに、糊残りを生じにくくすることができる。

【 0 1 3 0 】

続いて、情報表示用の貼付シートである性能情報表示シール S 2 1、外部端子情報表示シール S 2 2、主基板情報表示シール S 2 3 について説明する。性能情報表示シール S 2 1 は、当該遊技機の性能情報を表示するもので、図 5，図 8 に示すように、遊技盤 1 6 における遊技領域 2 3 の外側の所定位置、例えば第 3 レール部材 5 1 c の下部前面側に貼付されており、図 2 0 (A) に示すように、第 3 レール部材 5 1 c の形状に合わせて上縁側が右上がりの傾斜状に形成された横長の台形状に形成され、当該遊技機の型式名 2 1 1 の他、賞球数情報 2 1 2、大当り確率情報 2 1 3、二次元コード 2 1 4 等が、白地に黒色の文字等で表示されている。

【 0 1 3 1 】

この性能情報表示シール S 2 1 は、図 2 1 (A)，(B) に示すように、P E T、紙等の素材よりなる白色の本体シートに対して、その表面（上面）側に、シルク印刷等により黒色（K 版）の 1 版（1 色）で印刷を行い、また裏面側にはその全面に糊を付着させた全面糊層（糊版）が設けられている。各版（第 1，2 版）の態様は図 2 1 (a)，(b) のようになっている。このように性能情報表示シール S 2 1 は、印刷の版数が 2、印刷による色数（生地色の白色は除く）が 1 で、全面糊層が採用されており、その全面が非透明で且つ非透光性を有するものとする。なお、性能情報表示シール S 2 1 の後側には L E D は配置されていない。

【 0 1 3 2 】

この性能情報表示シール S 2 1 は、遊技機の性能情報を表示しているため、部品を再利用する場合には貼り替える可能性があるが、装飾を目的とするものではなく、また遊技領域 2 3 の外側に配置されていることから、本実施形態ではコスト等を優先して全面糊層を採用している。また、情報の見やすさが担保されればよく、見栄えは重視されないため、版数や色数をなるべく少なくしてコストを抑えている。

【 0 1 3 3 】

外部端子情報表示シール S 2 2 は、外部端子に関する情報を表示するもので、図 4 に示すように前枠 3 の裏側における外部端子基板 1 5 2 a の近傍（透光性を有しない被貼付部）に貼付されており、図 2 0 (B) に示すように、外部端子基板 1 5 2 a に対応するように横長矩形状に形成され、複数個（12 個）の外部端子 1 5 2 毎に、端子色とそれに対応する出力信号の種類等が、黄色地に黒色の文字等で表示されている。なお、12 個の外部端子 1 5 2 のうち、左側の 2 個が払出發射制御基板 1 5 6 の制御下にある第 1 外部端子、残りの 10 個が主制御基板 1 4 1 の制御下にある第 2 外部端子となっているため、前枠 3 に貼付されているこの外部端子情報表示シール S 2 2 には、2 個の第 1 外部端子に対しては「賞球」，「扉・枠開放」等の具体的な出力信号の種類が表示され、残り 10 個の第 2 外部端子に対しては出力信号の種類ではなく「情報端子 1」～「情報端子 10」等の端子番号が表示されている。第 2 外部端子から出力される出力信号の種類についての情報は、遊技盤 1 6 上の任意の位置、例えば主制御基板ケース 1 4 2 の背面側に貼付される外部端子情報表示シール（図示省略）に表示される。

【 0 1 3 4 】

外部端子情報表示シール S 2 2 は、図 2 2 (A)，(B) に示すように、P E T、紙等の素材よりなる黄色の本体シートに対して、その表面（上面）側に、シルク印刷等により黒色（K 版）の 1 版（1 色）で印刷を行い、また裏面側にはその全面に糊を付着させた全面糊層（糊版）が設けられている。各版（第 1，2 版）の態様は図 2 2 (a)，(b) のようになっている。このように外部端子情報表示シール S 2 2 は、印刷の版数が 2、印刷

による色数（生地色の黄色は除く）が1で、全面糊層が採用されており、その全面が非透明で且つ非透光性を有するものとする。なお、外部端子情報表示シールS22の後側にはLEDは配置されていない。

【0135】

この外部端子情報表示シールS22は、前枠3側に貼付されており、払出発射制御基板156の制御下にある第1外部端子の情報を表示するものであるため、張り替えの可能性は低く、従って本実施形態ではコストや剥がれにくさを優先して全面糊層を採用している。また、情報の見やすさが担保されればよく、見栄えは重視されないため、版数や色数をなるべく少なくしてコストを抑えている。

【0136】

主基板情報表示シールS23は、主制御基板141に関する情報を表示するもので、図4に示すように透明な主制御基板ケース142の背面側に貼付されており、図20（C）に示すように、透明シートにより略矩形状に形成されている。この主基板情報表示シールS23には、主基板管理番号等を表示するための管理番号表示エリア221と、開封者と開封年月日とを記入するための複数組の開封情報記入エリア222とが白色べた塗りの領域として形成されており、管理番号表示エリア221の近傍には「主基板管理番号」の文字が、開封情報記入エリア222の近傍には開封順を示す番号と「開封者」、「開封年月日」の文字が夫々黒色で表示されている。

【0137】

主基板情報表示シールS23は、図23（A），（B）に示すように、PET等の素材よりなる無色透明の本体シートに対して、その表面（上面）側に、シルク印刷等により白色（100％）で印刷を行い、また裏面側には黒色（K版）の印刷と、全面に糊を付着させた全面糊層（糊版）が設けられている。各版（第1～3版）の態様は図23（a）～（c）のようになっている。このように本実施形態では、開封情報記入エリア222には後から手書き等により情報が記入されることを考慮して、開封情報記入エリア222等を構成する白色（100％）の版を本体シートの表面（上面）側に配置している。なお、管理番号表示エリア221には、後に行われる別工程で機種毎の主基板管理番号等が印刷される。このように主基板情報表示シールS23は、印刷の版数が3、印刷による色数が2で、全面糊層が採用されており、その少なくとも一部が透光性を有し、更にその少なくとも一部が透明となっている。

【0138】

この主基板情報表示シールS23は、遊技機本体の裏側の主制御基板ケース142に貼付されており、主制御基板141に関する情報を表示するものであるため、張り替えの可能性は低く、従って本実施形態ではコストや剥がれにくさを優先して全面糊層を採用している。また、装飾を目的とするものではなく、情報の見やすさが担保されればよいとため、版数や色数をなるべく少なくしてコストを抑えている。なお、主基板情報表示シールS23の後側にはLEDは配置されていないが、後側の基板に実装された電子部品が見えるように透明のシートを採用している。

【0139】

以上説明したように、本パチンコ機では、裏面に糊層を有する装飾シール（貼付シート）S11～S16を、透明な被貼付部131～136に夫々貼付しているが、それら装飾シールS11～S16のうち、装飾シールS11～S13，S15については、糊層に、糊が付着している糊部と付着していない糊なし部とを設けている。そして、装飾シールS11については、図12に示すように、透明部、透光部、非装飾部に対応する領域の少なくとも一部に糊なし部を設け、貼付シートの外周に沿う領域と、非透明部、非透光部、装飾部に対応する領域との少なくとも一部に糊部を設けている。また、装飾シールS12については、図13に示すように、透光部、非装飾部に対応する領域の少なくとも一部に糊なし部を設けている。また、装飾シールS13については、図14に示すように、透光部、非装飾部に対応する領域の少なくとも一部に糊なし部を設け、貼付シートの外周に沿う領域と、非透光部、装飾部に対応する領域との少なくとも一部に糊部を設けている。また

10

20

30

40

50

、装飾シール S 1 5 については、図 1 6 に示すように、透明部、透光部、非装飾部に対応する領域の少なくとも一部に糊なし部を設け、貼付シートの外周に沿う領域と、非透明部、非透光部、装飾部に対応する領域との少なくとも一部に糊部を設け、遊技球が通過する遊技球通過部、即ち第 2 傾斜転動路 1 2 1、振り分け案内通路 1 1 9 a 及び振り分け手段 1 1 9 の前側に透明部を配置している。

【0 1 4 0】

また、装飾シール S 1 2 については、普通図柄表示手段 6 9 を構成する L E D（報知用の発光体）6 9 a、6 9 b、普通保留個数表示手段 7 0 を構成する L E D（報知用の発光体）7 0 a～7 0 d、第 2 特別図柄表示手段 7 2 を構成する 7 セグ L E D（報知用の発光体）、右打ち報知手段 6 0 を構成する L E D（報知用の発光体）6 0 a に対応する非装飾部（発光部）1 7 3～1 7 5 を設け、その非装飾部（発光部）1 7 3～1 7 5 に対応する領域を透光部として糊なし部を設けている。装飾シール S 1 3 についても同様に、第 1 特別図柄表示手段 7 1 を構成する 7 セグ L E D（報知用の発光体）に対応する非装飾部（発光部）1 8 3 を設け、その非装飾部（発光部）1 8 3 に対応する領域を透光部として糊なし部を設けている。

【0 1 4 1】

また、装飾シール S 1 1～S 1 3、S 1 5（装飾用の第 1 貼付シート）は、糊が付着している糊部と付着していない糊なし部とを有する部分糊層を有しているのに対し、性能情報表示シール S 2 1、外部端子情報表示シール S 2 2、主基板情報表示シール S 2 3（何れも情報表示用の第 2 貼付シート）は、糊なし部を有しない全面糊層を有している。

【0 1 4 2】

また、装飾シール S 1 1～S 1 3、S 1 5（遊技領域内の被貼付部に貼付される第 1 貼付シート）は、糊が付着している糊部と付着していない糊なし部とを有する部分糊層を有しているのに対し、注意喚起シール S 1～S 7、性能情報表示シール S 2 1、外部端子情報表示シール S 2 2、主基板情報表示シール S 2 3（何れも遊技領域外の貼付部に貼付される第 2 貼付シート）は、糊なし部を有しない全面糊層を有している。

【0 1 4 3】

また、装飾シール S 1 1～S 1 3、S 1 5（遊技機本体の表側の被貼付部に貼付される第 1 貼付シート）は、糊が付着している糊部と付着していない糊なし部とを有する部分糊層を有しているのに対し、注意喚起シール S 5～S 7、外部端子情報表示シール S 2 2、主基板情報表示シール S 2 3（何れも遊技機本体の裏側の貼付部に貼付される第 2 貼付シート）は、糊なし部を有しない全面糊層を有している。

【0 1 4 4】

また、装飾シール S 1 1、S 1 5（透明部を有する第 1 貼付シート）は、糊が付着している糊部と付着していない糊なし部とを有する部分糊層を有しているのに対し、注意喚起シール S 1～S 7、性能情報表示シール S 2 1、外部端子情報表示シール S 2 2（何れも透明部を有しない第 2 貼付シート）は、糊なし部を有しない全面糊層を有している。

【0 1 4 5】

また、装飾シール S 1 1～S 1 3、S 1 5（透光部を有する第 1 貼付シート）は、糊が付着している糊部と付着していない糊なし部とを有する部分糊層を有しているのに対し、注意喚起シール S 1～S 7、性能情報表示シール S 2 1、外部端子情報表示シール S 2 2（何れも透光部を有しない第 2 貼付シート）は、糊なし部を有しない全面糊層を有している。

【0 1 4 6】

また、装飾シール S 1 1～S 1 3、S 1 5（遊技者が触れることができない被貼付部に貼付される第 1 貼付シート）は、糊が付着している糊部と付着していない糊なし部とを有する部分糊層を有しているのに対し、注意喚起シール S 1～S 4（遊技者が触れることが可能な被貼付部に貼付される第 2 貼付シート）は、糊なし部を有しない全面糊層を有している。

【0 1 4 7】

また、糊層の粘着力は、装飾シール S 1 1 ~ S 1 3 , S 1 5 (装飾用の第 1 貼付シート) よりも性能情報表示シール S 2 1、外部端子情報表示シール S 2 2、主基板情報表示シール S 2 3 (何れも情報表示用の第 2 貼付シート) の方が強く、装飾シール S 1 1 ~ S 1 3 , S 1 5 (遊技領域内の被貼付部に貼付される第 1 貼付シート) よりも注意喚起シール S 1 ~ S 7、性能情報表示シール S 2 1、外部端子情報表示シール S 2 2、主基板情報表示シール S 2 3 (何れも遊技領域外の貼付部に貼付される第 2 貼付シート) の方が強く、装飾シール S 1 1 ~ S 1 3 , S 1 5 (遊技機本体の表側の被貼付部に貼付される第 1 貼付シート) よりも注意喚起シール S 5 ~ S 7、外部端子情報表示シール S 2 2、主基板情報表示シール S 2 3 (何れも遊技機本体の裏側の貼付部に貼付される第 2 貼付シート) の方が強く、装飾シール S 1 1 , S 1 5 (透明部を有する第 1 貼付シート) よりも注意喚起シール S 1 ~ S 7、性能情報表示シール S 2 1、外部端子情報表示シール S 2 2 (何れも透明部を有しない第 2 貼付シート) の方が強く、装飾シール S 1 1 ~ S 1 3 , S 1 5 (透光部を有する第 1 貼付シート) よりも注意喚起シール S 1 ~ S 7、性能情報表示シール S 2 1、外部端子情報表示シール S 2 2 (何れも透光部を有しない第 2 貼付シート) の方が強く、装飾シール S 1 1 ~ S 1 3 , S 1 5 (遊技者が触れることができない被貼付部に貼付される第 1 貼付シート) よりも注意喚起シール S 1 ~ S 4 (遊技者が触れることが可能な被貼付部に貼付される第 2 貼付シート) の方が強くなっている。

10

【0148】

また、装飾シール S 1 1 ~ S 1 3 , S 1 5 (第 1 貼付シート) と、それよりも面積が小さい装飾シール S 1 4 , S 1 6 とを比較すると、後者の方が使用する色数、印刷の版数が少なくなっている。また前者では、シアン、マゼンタ、イエロー、ブラック、ホワイトの 5 色以上の色数で印刷されている。

20

【0149】

また、装飾シール S 1 1 ~ S 1 6 (透光性を有する被貼付部に貼付される第 1 貼付シート) と、注意喚起シール S 1 ~ S 4、外部端子情報表示シール S 2 2 (透光性を有しない被貼付部に貼付される第 2 貼付シート) とを比較すると、後者の方が使用する色数、印刷の版数が少なくなっている。装飾シール S 1 5 では、透光性を有する被貼付部 1 3 5 の後側に LED 1 2 5 a を配置し、装飾シール S 1 5 のカラー印刷領域の少なくとも一部、即ち第 1 背景装飾部 1 9 1 b 等を透光性として、後側の LED 1 2 5 a からの光を透過するようになっている。また、装飾シール S 1 2 , S 1 3 では、同一色で透光率の異なる複数の版 (白 1 0 0 % , 白 5 0 %) を使用している。

30

【0150】

また、装飾シール S 1 1 ~ S 1 6 (装飾用の第 1 貼付シート) と、注意喚起シール S 1 ~ S 7、性能情報表示シール S 2 1、外部端子情報表示シール S 2 2、主基板情報表示シール S 2 3 (何れも情報表示用の第 2 貼付シート) とを比較すると、後者の方が使用する色数、印刷の版数が少なくなっている。また、複数種類の注意喚起シール S 1 ~ S 7 で、使用する色数 (ここでは 3) 及び色の種類 (黄色、黒色、白色) を同じにしている。

【0151】

また、形状及び／又は表示される注意喚起情報の内容が異なる複数種類の注意喚起シール (注意喚起用貼付シート) S 1 ~ S 7 は、色数が同じで共通の記号 (第 1 注意記号 s 1 , 第 2 注意記号 s 2) を使用している。また、それら注意喚起シール S 1 ~ S 7 で使用される色の組合せ (黄色、黒色、白色) は、その他の貼付シートでは使用されていない。また、注意喚起シール S 1 ~ S 4 は、遊技者が触れることが可能な被貼付部に貼付されるとともに、糊が略全面に付着している全面糊層を有している。

40

【0152】

また、装飾シール (装飾貼付シート) S 1 1 ~ S 1 6 のうちの装飾シール (特定装飾貼付シート) S 1 5 については、その一部に情報表示部、即ち第 1 注意喚起情報表示部 3 0 1、第 2 注意喚起情報表示部 3 0 2、著作権情報表示部 3 0 3、二次元コード表示部 3 0 4 を設けている。このように、装飾シールに情報表示部を設けることで、装飾や注意喚起等の複数の目的を達成しつつ装飾シールの数を少なくすることができ、コスト削減が可能

50

となる。

【0153】

装飾シール（特定装飾貼付シート）S15を、遊技球が通過する遊技球通過部と通過しない非通過部の前側に跨がって配置するとともに、情報表示部を非通過部に対応する位置に配置し、情報表示部の後側にはLED（発光手段）125aを配置しないように構成している。また、装飾シール（特定装飾貼付シート）S15における情報表示部を、装飾シールS15における外周部近傍に配置し、装飾を情報表示部よりも内側に配置している。

【0154】

また、装飾シール（特定装飾貼付シート）S15においては、注意喚起情報表示部である第1注意喚起情報表示部301及び第2注意喚起情報表示部302の他、二次元コード表示部304に対応する領域を非透明としている。二次元コード表示部304は、装飾シール（特定装飾貼付シート）S15の種類を示す情報を構成している。また二次元コード表示部304は、二次元コードと、二次元コードの周囲に設けられた空白部とを有している。

10

【0155】

また、遊技ホール担当者向けの注意喚起情報を表示する第1注意喚起情報表示部301を、ガラス扉（開閉扉）7を閉じた状態では前側から視認できず、ガラス扉7を開いた状態で前側から視認可能な位置に配置している。この第1注意喚起情報表示部301には、ガラス扉7を開いた状態で遊技ホール担当者が行う作業に関する注意喚起情報を表示している。一方、遊技者向けの注意喚起情報を表示する第2注意喚起情報表示部302については、ガラス扉7を閉じた状態で前側から視認可能な位置に配置している。

20

【0156】

装飾シール（特定装飾貼付シート）S15における注意喚起情報表示部と、注意喚起シール（注意喚起情報貼付シート）S1等における注意喚起情報表示部は、色数が同じで共通の記号を使用している。また、注意喚起シール（注意喚起情報貼付シート）S1等は、所定色（白色）の非透明シートに対して印刷され、装飾シール（特定装飾貼付シート）S15は、無色の透明シートに対して印刷されている。

【0157】

装飾シール（特定装飾貼付シート）S15は、遊技球が通過する遊技球通過部と通過しない非通過部の前側に跨がって配置するとともに、著作権情報表示部303を非通過部に対応する位置に配置し、著作権情報を構成する文字列は略水平に配置し、装飾を構成する文字列は少なくとも一部を非水平に配置している。また装飾シール（特定装飾貼付シート）S15は、著作権情報表示部303を、著作権情報とは異なる種類の情報を表示する第2注意喚起情報表示部（特定情報表示部）302の近傍に配置している。装飾シール（特定装飾貼付シート）S15は、少なくとも著作権情報表示部303の背景を透明としている。

30

【0158】

図24及び図25は本発明の第2の実施形態を例示し、第1の実施形態を一部変更して、遊技盤16における透明本体板50よりも後側に装飾シール（装飾シート）S17を配置した例を示している。なお、本実施形態が第1の実施形態と異なるのは、新たに装飾シールS17を追加した点と、その装飾シールS17を貼付するための被貼付部を後部支持部材（所定部材）74上に設けた点のみである。以下、第1の実施形態との相違点を中心に説明する。

40

【0159】

装飾シールS17は、その少なくとも一部に装飾が施される装飾貼付シート（装飾シート）であるとともに、装飾シールS15と同様、その一部に一又は複数（ここでは1つ）の情報表示部を設けた特定装飾貼付シート（特定装飾シート）でもあり、図24（a）、（b）に示すように、透明本体板50の背面側の後部支持部材74に形成された無色透明の被貼付部311に貼付されている。

【0160】

50

被貼付部 3 1 1 は、後部支持部材 7 4 の後壁部 7 5 における上部前面側に設けられ、透明本体板 5 0 と略平行な平面状に形成されており、その前方には、装飾シール S 1 1 が貼付された被貼付部 1 3 1 と、その上側に配置される上部球通路 3 1 2 とが位置している。なお、上部球通路 3 1 2 は、右流下経路 9 5 b 側を狙っていわゆる右打ちされた遊技球を右流下経路 9 5 b まで案内する球通路であり、遊技領域 2 3 の上部側に沿って、第 1 レール部材（遊技部品）5 1 a と中央表示枠ユニット（遊技部品）5 3 の装飾枠 9 3 との間（遊技部品が配置されていない位置）に正面視略円弧状に形成されている。なお、図 2 4（b）の例では、被貼付部 3 1 1 は透明本体板 5 0 の後方に大きく離間して配置されているが、被貼付部 3 1 1 と透明本体板 5 0 との間の距離は任意であり、例えば被貼付部 3 1 1 を透明本体板 5 0 の背面に近接又は略当接する位置に配置してもよい。

10

【0161】

装飾シール S 1 7 は、図 2 5（A），（B）に示すように、PET 等の素材よりなる無色透明の本体シートに対して、その裏面（底面）側に、シルク 4 版（CMYK カラー）＋シルク白（100%）版＋糊版による印刷が施されている。このように、装飾シール S 1 7 は、印刷の版数が 6、印刷による色数が 5 となっている。

【0162】

第 1～4 版は、夫々シアン（C）、マゼンタ（M）、黄色（Y）、黒色（K）で、それら三原色＋黒色によってフルカラーのイラスト（装飾）及び情報表示部が形成されている。装飾シール S 1 7 に描かれているイラスト（装飾）は、図 2 5（a）に示すように、雲を表す第 1 装飾部 3 1 3 と、それらの背景部分である空を表す第 2 装飾部 3 1 4 とで構成されている。なお、この装飾シール S 1 7 のイラスト（装飾）は、その少なくとも一部が、図 2 4（a）に示すように、前側に配置されている装飾シール S 1 1 における非装飾部 1 6 3（図 1 2 参照）の後側に対応してその背景を構成している。

20

【0163】

また装飾シール S 1 7 には、注意喚起情報表示部（情報表示部）3 1 5 が、上部球通路（遊技球通過部）3 1 2 の後側に対応する位置に配置されている。注意喚起情報表示部 3 1 5 は、遊技ホール担当者に向けて、遊技盤 1 6 の着脱作業に関して注意喚起を行うためのもので、例えば上部球通路 3 1 2 に沿って細長略円弧状に形成されるとともに、図 2 4（c）に示すように、左端側の所定幅の領域が第 1 表示部 a 1、その右側の領域が第 2 表示部 a 2 となっている。

30

【0164】

第 1 表示部 a 1 は、背景が黄色で、黒色べた塗りの三角形の中に「！」の抜き文字（背景と同じ黄色）が配置された第 1 注意記号 s 1 と、黒色のゴシック体よりなる「注意」の文字で構成される第 2 注意記号 s 2 とが左右に隣接した状態で表示されている。また第 2 表示部 a 2 は、背景が黒色で、白色のゴシック体よりなる「遊技盤を着脱する際は必ず電源を OFF にして下さい。」の文字が例えば一列状に表示されている。このように、注意喚起情報表示部 3 1 5 では、第 1、第 2 注意喚起情報表示部 3 0 1、3 0 2 と同様、使用する色数及び色の種類（黄色、黒色、白色）、使用する記号（第 1 注意記号 s 1 及び第 2 注意記号 s 2）、第 1 表示部 a 1 と第 2 表示部 a 2 とに分けている点、第 1、第 2 表示部 a 1、a 2 における色配置等を注意喚起シール S 1～S 7 と共通化することにより、注意喚起情報であることが一目で分かるようにしている。

40

【0165】

なお、注意喚起情報表示部 3 1 5 は、ガラス扉（開閉扉）7 に設けられた窓孔 2 4 a の内側に、その窓孔 2 4 a の縁部に沿って配置されており、ガラス扉 7 を閉じた状態でも、透明本体板 5 0 とガラス窓 2 4 とを介して前側から視認可能となっている。

【0166】

第 5 版は、白（100%）により装飾の裏側から白打ちを行うもので、図 2 5（b）に示すようにその領域は第 1 装飾部 3 1 3、第 2 装飾部 3 1 4 及び注意喚起情報表示部 3 1 5 と一致している（即ちここでは全面）。この白（100%）による白打ちを行うと、その領域は光を殆ど通さない非透光性を示すものとする。

50

【0167】

第6版は糊版で、この装飾シールS17の糊層は、図25(c)に示すように、糊が付着している糊部321と糊が付着していない糊なし部322とを有する部分糊層となっている。また、糊部321は、透明シートの外周に沿う略一定幅の外周領域に形成されており、それよりも内側の領域は全て糊なし部322となっている。

【0168】

以上説明したように、装飾シールは透明本体板50の後側に配置してもよい。また、装飾シール(装飾貼付シート)のうち、情報表示部を設けた特定装飾貼付シートを透明本体板50の後側に配置する場合、情報表示部を、遊技球が通過する球通路(上部球通路312)の後側に配置してもよい。情報表示部を遊技球通過部の後側に配置すれば、情報表示部が遊技球の視認性を妨げることはなく、また情報表示部が必要以上に目立つことがないため見栄えが極端に低下することもない。

10

【0169】

なお本実施形態では、遊技球通過部の後側に配置する情報表示部を、遊技ホール担当者向けの注意喚起情報表示部としたが、それ以外の情報表示部、例えば遊技者向けの注意喚起情報表示部を遊技球通過部の後側に配置してもよい。

【0170】

図26は本発明の第3の実施形態を例示し、第1、第2の実施形態における装飾シールS11を一部変更して、光沢を有する光沢版を設けた例を示している。本実施形態が第1、第2の実施形態と異なるのは、装飾シールS11に光沢版を追加した点のみである。

20

【0171】

図26は、第1の実施形態に係る図12に対応するもので、シルク4版(CMYKカラー)とシルク白(100%)版との間に、銀色等のパスタ光沢版(新たな第5版)が配置されている。なお、光沢版以外の版の態様については第1の実施形態と共通である。このように、本実施形態の装飾シールS11では、印刷の版数が7、印刷による色数が6(光沢を含む)となっている。

【0172】

第5版(光沢版)の領域(光沢領域)は、第2装飾部162の領域と一致している。即ち、第2装飾部162の後側に光沢層が配置される。これにより、第2装飾部162の領域では、その色のまま光沢感が付加され、光を反射してキラキラ光るような見え方となる。

30

【0173】

なお、光沢版はカラー版よりも上面側に配置してもよい。この場合、光沢領域についてはその後側の色が隠蔽される。また、パスタ光沢版以外の特殊版、例えばチジミ版、シボ版等を用いてもよい。

【0174】

続いて、本発明の第4の実施形態を図面に基づいて詳述する。図29～図35は本発明をパチンコ機に採用した第4の実施形態を例示している。図29において、遊技機本体501は、矩形状の外枠502と、この外枠502の前側に左右一側、例えば左側のヒンジ503により開閉自在に枢着された前枠504とを備えている。前枠504には、遊技盤505等が上部側に、遊技盤505の前側の遊技領域505aに向けて遊技球を発射する発射手段506、下部スピーカSP1等が下部側にそれぞれ配置されると共に、遊技盤505等の前側に対応してガラス扉507が、発射手段506、下部スピーカSP1等の前側に対応して前面板508がそれぞれヒンジ503と同じ側のヒンジ509により開閉自在に枢支されている。なお、ガラス扉507と前面板508とを一つの扉体で構成することにより一体的に開閉可能としてもよい。

40

【0175】

ガラス扉507には、その略中央に、遊技領域505aに対応するガラス窓507aが設けられ、またそのガラス窓507aの周囲には、上部スピーカSP2、電飾装置510等の各種演出手段が配置されている。電飾装置510は、前面側にLED511aが配設

50

されたLED基板511と、そのLED基板511の前側に配置された発光レンズ部512とを備えている。ガラス扉507の前面側には、上部スピーカSP2等を前側から覆う合成樹脂製のガラス枠カバー513が設けられており、そのガラス枠カバー513の少なくとも一部が、透光性を有する発光レンズ部512となっている。発光レンズ部512には、内部のLED基板511等を前側から見えにくくするとともにLED511aから発せられた光を適度に拡散させるべく、凹凸加工等の光拡散処理が施されている。

【0176】

前面板508の前側には、払い出し手段514（図30参照）から払い出された遊技球を貯留して発射手段506に供給するための上皿515が上部側に配置され、またその上皿515の下側には、例えば上皿515が満杯のときにその余剰球を貯留する下皿516が左端側に、発射手段506を作動させるための発射ハンドル517が右端側に夫々設けられている。更に、例えば上皿515等を前側から覆う上皿カバー518上には、遊技者が押下操作可能な演出ボタン519等の各種操作手段が設けられている。なお、上皿カバー518上にも電飾手段を配置してもよい。

【0177】

遊技盤505の前面側には、発射手段506から発射された遊技球を案内するガイドレール520が環状に装着されると共に、そのガイドレール520の内側の遊技領域505aに、センターケース521、普通図柄始動手段522、特別図柄始動手段523、大入賞手段524、普通入賞手段525等の各種遊技部品が配置されている。

【0178】

センターケース521は、例えば遊技領域505aの略中央に配置されており、液晶式等の画像表示手段526に対応する略矩形状の表示窓527を備え、その表示窓527を取り囲む装飾枠528上に、普通図柄表示手段531、特別図柄表示手段532、普通保留個数表示手段533、第1特別保留個数表示手段534等の各種表示手段の他、ステージ535、可動演出手段536等が設けられている。

【0179】

ステージ535は、画像表示手段526の下部前側に左右方向に配置されており、センターケース521の側部、例えば左側に設けられたワープ入口535aに流入した遊技球を自由に転動させた後、例えば左右方向中央の中央落下部又はその左右両側の側部落下部から前側に落下させるようになっている。

【0180】

可動演出手段536は、可動電飾装置540と、この可動電飾装置540を移動可能に支持する可動体案内手段541と、可動電飾装置540を駆動する駆動手段542とを備えている。可動電飾装置（電飾装置）540は、左右方向の横長状に形成され、その前面側には任意の装飾（ここでは当該遊技機のタイトルである「カップ伝説」の文字）が例えば立体的に形成されており、内部に配置されたLED573が点灯することによって所定部位（ここでは「カップ伝説」の文字部分）が任意色で発光するようになっている。この可動電飾装置540の詳細については後述する。

【0181】

可動体案内手段541は、可動電飾装置540を画像表示手段526の表示画面526aの前面側に沿って所定方向（ここでは上下方向）に移動可能な状態で支持するもので、画像表示手段526の表示画面526aの左右両側に沿って上下方向に配置された一対の案内レール543を備え、それら各案内レール543によって可動電飾装置540の左右両端部が上下方向移動可能に支持されている。この可動体案内手段541により、可動電飾装置540は、画像表示手段526の上側の上部位置と、画像表示手段526の前側の下部位置との間で上下方向に移動可能であり、通常時は原点位置である上部位置に保持されている。

【0182】

駆動手段542は、例えばステッピングモータで構成され、装飾枠528の後側に配置されており、図示しないベルト等を介して可動電飾装置540を所定の動作パターンに従

10

20

30

40

50

って上下方向に移動させることが可能となっている。

【0183】

普通図柄始動手段522は、普通図柄表示手段531による図柄変動を開始させるためのもので、遊技球が通過可能な通過ゲートにより構成され、センターケース521の左側に配置されており、遊技球の通過を検出可能な遊技球検出手段（図示省略）を備えている。

【0184】

普通図柄表示手段531は、普通図柄を変動表示するためのもので、複数個の普通図柄（例えば「○」「×」の2種類）に対応する複数個の発光体（例えばLED）を備え、普通図柄始動手段522が遊技球を検出することに基づいてそれら複数の発光体が所定順序で発光するように点滅して、普通図柄始動手段522による遊技球検出時に取得された普通乱数情報に含まれる当り判定乱数値が予め定められた当り判定値と一致する場合には当り態様に対応する例えば「○」側の発光体が点灯し、それ以外の場合にははずれ態様に対応する例えば「×」側の発光体が点灯して停止する。

【0185】

普通図柄始動手段522による遊技球検出時に取得された普通乱数情報は、予め定められた上限個数、例えば4個を限度として保留記憶され、普通図柄表示手段531による図柄変動が開始される毎に順次消化される。普通乱数情報の記憶個数（普通保留個数）は普通保留個数表示手段533等によって遊技者に報知される。

【0186】

特別図柄始動手段523は、特別図柄表示手段532による図柄変動を開始させるためのもので、例えば上下2つの始動入賞手段523a、523bと、下始動入賞手段523bを開閉する開閉手段546と、始動入賞手段523a、523bに入賞した遊技球を夫々検出する遊技球検出手段（図示省略）とを備え、例えばセンターケース521の下側に配置されている。上始動入賞手段523aは開閉手段等を有しない非開閉式入賞手段で、ステージ535の中央落下部の真下に上向き開口状に配置されている。下始動入賞手段523bは、開閉手段546により遊技球が入賞可能な開状態と入賞不可能（又は開状態よりも入賞困難）な閉状態とに切り換え可能な開閉式入賞手段で、上始動入賞手段523aの下側に配置されており、普通図柄表示手段531の変動後の停止図柄が当り態様となった場合に発生する普通利益状態において、開閉手段546が所定時間閉状態から開状態に変化するように構成されている。

【0187】

特別図柄表示手段532は、特別図柄を変動表示するためのもので、1個又は複数個、例えば1個の特別図柄を変動表示可能な7セグメント式等の表示手段により構成されており、特別図柄始動手段523が遊技球を検出した場合（図柄始動条件が成立した場合）、即ち上下2つの始動入賞手段523a、523bの何れかに遊技球が入賞した場合に特別図柄を所定時間変動表示して、始動入賞手段523a、523bへの入賞時に取得された特別乱数情報に含まれる大当り判定乱数値が予め定められた大当り判定値と一致する場合には所定の大当り態様で、一致しない場合には例えばはずれ態様で停止するようになっている。

【0188】

特別図柄始動手段523への遊技球入賞時に取得された特別乱数情報は、予め定められた上限個数、例えば4個を限度として保留記憶され、特別図柄表示手段532による図柄変動が開始される毎に順次消化される。特別乱数情報の記憶個数（特別保留個数）は、第1特別保留個数表示手段534、後述する第2特別保留個数表示手段549等によって遊技者に報知される。

【0189】

大入賞手段524は、遊技球が入賞可能な開状態と入賞不可能な閉状態とに切り換え可能な開閉板547を備えた開閉式入賞手段で、例えば特別図柄始動手段523の下側に配置されており、特別図柄表示手段532の変動後の停止図柄が大当り態様となった場合に

10

20

30

40

50

発生する特別利益状態において、開閉板 5 4 7 が所定の開放パターンに従って前側に開放して、その上に落下した遊技球を内部へと入賞させるようになっている。

【0190】

また画像表示手段 5 2 6 は、演出図柄表示手段 5 4 8、第 2 特別保留個数表示手段 5 4 9 等を構成している。演出図柄表示手段 5 4 8 は、特別図柄表示手段 5 3 2 による特別図柄の変動表示と並行して演出図柄 P を変動表示するものである。演出図柄 P は、数字図柄その他の複数の図柄で構成される図柄列を複数（図 2 9 の例では左右方向に 3 つ）備えており、特別図柄の変動開始と略同時に所定の変動パターンに従って図柄列毎に縦スクロール等による変動を開始すると共に、所定の有効ライン上の停止図柄が所定態様となるように特別図柄の変動停止と略同時に最終停止する。なお演出図柄 P では、例えば有効ライン上の全ての停止図柄が同じ場合が大当り演出態様、それ以外がはずれ演出態様となっており、特別図柄が大当り態様、はずれ態様となる場合には演出図柄 P は大当り演出態様、はずれ演出態様となる。

10

【0191】

第 2 特別保留個数表示手段 5 4 9 は、特別保留個数を報知するためのもので、特別保留個数分（最大 4 個）の保留表示画像 Q 4 ～ Q 1 と、変動中の演出図柄 P に対応する変動中保留画像 Q 0 とを表示画面 5 2 6 a の所定位置、例えば下部側に表示可能となっている。第 2 特別保留個数表示手段 5 4 9 は、特別図柄始動手段 5 2 3 への遊技球の入賞によって特別保留個数が増加した場合には、保留表示画像 Q 1 ～を待ち行列の最後尾（例えば左端側）に 1 個追加表示し、特別図柄の新たな変動が開始して特別保留個数が減少した場合には、例えば変動中保留画像 Q 0 を消去すると共に、保留表示画像 Q 1 ～を待ち行列の前側（例えば右側）に向けて 1 個分ずつシフトし、押し出された先頭の保留表示画像 Q 1 を新たな変動中保留画像 Q 0 に変化させるようになっている。

20

【0192】

また、遊技盤 5 0 5 上には、可動演出手段 5 3 6 の他にも、センターケース 5 2 1 等の各種遊技部品に電飾装置 5 5 0 が配置されている。電飾装置 5 5 0 は、前面側に LED 5 5 1 a が配設された LED 基板 5 5 1 と、その LED 基板 5 5 1 の前側に配置された発光レンズ部 5 5 2 とを備えている。発光レンズ部 5 5 2 は、装飾枠 5 2 8 の少なくとも一部に設けられた透光部により構成されている。発光レンズ部 5 5 2 には、内部の LED 基板 5 5 1 等を前側から見えにくくするとともに LED 5 5 1 a から発せられた光を適度に拡散させるべく、凹凸加工等の光拡散処理が施されている。

30

【0193】

図 3 0 は本パチンコ機の制御系の概略ブロック図である。図 3 0 において、主制御基板 5 6 1 は遊技動作を統括的に制御するもので、遊技盤 5 0 5 上の普通図柄始動手段 5 2 2、特別図柄始動手段 5 2 3、大入賞手段 5 2 4、普通入賞手段 5 2 5、普通図柄表示手段 5 3 1、特別図柄表示手段 5 3 2、普通保留個数表示手段 5 3 3、第 1 特別保留個数表示手段 5 3 4 等が例えば図示しない中継基板等を経由して接続され、またその下位には、主制御基板 5 6 1 からの制御コマンドに基づいて画像表示手段 5 2 6 による画像表示、スピーカ SP 1, SP 2 による音声出力、電飾装置 5 1 0, 5 4 0, 5 5 0 による発光、駆動手段 5 4 2 による可動体駆動等の演出制御を行うサブ制御基板 5 6 2、主制御基板 5 6 1 からの制御コマンドに基づいて払い出し手段 5 1 4 を制御する払出制御基板 5 6 3、この払出制御基板 5 6 3 からの発射制御信号等に基づいて発射手段 5 0 6 を制御する発射制御基板 5 6 4 等が接続されている。

40

【0194】

続いて、図 3 1 ～図 3 5 等を参照しつつ可動電飾装置 5 4 0 の構成について説明する。可動電飾装置 5 4 0 は、図 3 1 ～図 3 4 等に示すように、前カバー体 5 7 1 と、ベース体 5 7 2 と、複数の LED（光源） 5 7 3 が配置された LED 基板 5 7 4 とで構成されている。前カバー体 5 7 1 は、透光性を有する合成樹脂製で、前面板 5 7 5 と、この前面板 5 7 5 の外周に沿って後向きに延設された外周板 5 7 6 とを一体に備えている。前カバー体 5 7 1 の前面板 5 7 5 には、例えば横書きのゴシック体による「カップ伝説」の文字列に

50

対応する文字領域を除き、前面側に非透光処理が施されており（非透光部 577）、これによって前面板 575 に「カップ伝説」の横書き文字列を構成する透光文字部（透光部）578 が形成されている。この透光文字部 578 は、図 31 に示すように、非透光部 577 により互いに分離された複数（ここでは 14 個）の透光領域 578a ～ 578n で構成されている。例えば「力」の文字は一つの透光領域 578a で構成され、「ッ」の文字は三つの透光領域 578b ～ 578d で構成されている。

【0195】

なお、非透光部 577 を形成するための非透光処理は、メッキ処理、非透光性シートの貼付等、任意である。また非透光部 577 は、完全な非透光性が要求されるものではなく、透光文字部 578 に比べて光の透過率が十分に小さければよい。また非透光処理は前カ

10

【0196】

前カバ一体 571 の前面板 575 は、透光文字部 578 を構成する「カップ伝説」の横書き文字列の外形に沿ってそれよりも一回り大きな横長形状に形成されるとともに、透光文字部 578 を構成する各文字の外周に沿って略一定幅の非透光縁取り部 577a が前向き突出状に形成されている。本実施形態ではこの非透光縁取り部 577a から外側が非透光部 577、非透光縁取り部 577a よりも内側が透光文字部 578 となっている。なお、非透光縁取り部 577a は、必ずしも前向き突出状に形成する必要はなく、その他の非透光部 577 と同じ厚さに形成してもよい。

【0197】

また図 34 に示すように、前カバ一体 571 の内面側には、LED 基板 574 等を前側から見えにくくするとともに LED 573 から発せられた光を適度に拡散させるべく、少なくとも透光文字部 578 に対応する領域にレンズカット加工その他の光拡散処理が施されている（光拡散部 579）。

20

【0198】

なお図 34 では、透光文字部 578 の後側の領域だけでなく、非透光部 577 の後側の領域にも光拡散処理を施した例を示したが、透光文字部 578 の後側の領域にのみ光拡散処理を施し、非透光部 577 の後側の領域には光拡散処理を施さないようにしてもよい。また、非透光部 577 の後側にも光拡散処理を施す場合、非透光部 577 全体ではなく、LED 573 の前側に対応する一定領域にのみ光拡散処理を施してもよい。また、透光文字部 578 と非透光部 577 との両方に対応して光拡散処理を施す場合、透光文字部 578 の後側と非透光部 577 の後側とで光拡散処理の種類（例えばレンズカット加工の種類）を異ならせてもよい。この場合のレンズカット加工の種類は、ボールカット加工、ローレット加工、ダイヤカット加工、アイスカット加工等、任意である。また透光文字部 578 に関しては、その透光文字部 578 側（すなわち前面側）にも内面側と同じ、又は異なる種類のレンズカット加工を施してもよい。

30

【0199】

前カバ一体 571 は、ベース体 572 の前側にねじ止め等により着脱自在に固定されている。ベース体 572 は、透光性を有しない合成樹脂製で、前カバ一体 571 の外形と略同じ形状に形成された前面板 581 と、この前面板 581 の外周に沿って後向きに延設された外周板 582 とを一体に備え、前面板 581 の前面側に前カバ一体 571 が固定されている。前カバ一体 571 の後側がこのベース体 572 の前面板 581 により略閉鎖されることにより、前カバ一体 571 内には発光室 583 が形成されている。なお、ベース体 572 の左右両端側には、案内レール 543 に対してスライド移動可能に装着されるレール接続部 584 が設けられている。

40

【0200】

LED 基板 574 は、前カバ一体 571 における外周板 576 の内面に沿う形状とすることにより、透光文字部 578 よりも大で且つ縁部が透光文字部 578 の外形に沿うように形成された基板本体 585 と、この基板本体 585 の前面側に配置された複数の LED 573 と、基板本体 585 の裏面側に配置されたコネクタ 586 とを備え、発光室 583

50

内の後部所定位置に配置された状態でベース体 572 の前面板 581 に対してねじ止め等により着脱自在に固定されている。

【0201】

ベース体 572 の前面板 581 には、基板支持用のボス 587 が前向き突出状に形成されており、このボス 587 により、LED 基板 574 はベース体 572 との間に一定の隙間を保持した状態で支持されている。コネクタ 586 に接続されるハーネス 588 は、ベース体 572 に形成された開口部 589 を経て可動電飾装置 540 の後側に引き出され、中継基板等を介してサブ制御基板 562 に接続されている。

【0202】

LED 基板 574 には、 $3 \times 10 = 30$ 個の LED 573 が、前カバー体 571 側の透光文字部 578、即ち「カップ伝説」の文字列に対応して配置されている。即ち、LED 基板 574 には、図 35 に示すように、可動電飾装置 540 の短手方向（ここでは文字列の幅方向である上下方向）に配列された複数（ここでは 3 個）の LED 573 よりなる LED 列（光源列）が、可動電飾装置 540 の長手方向（ここでは文字列の配列方向である左右方向）に複数（ここでは A～J の 10 組）配列されている。そして、LED 基板 574 上の LED 573 は、LED 列毎に異なるチャンネルで発光制御されるようになっている。これにより、LED 573 の発光状態（発光色や点灯／消灯等の発光態様）を文字列の配列方向に順次変化させるような発光制御を容易に行うことが可能である。

10

【0203】

なお図 33 では、30 個の LED 573 を、所属する LED 列を示す A～J の符号（図 35）と、それら各 LED 列内の番号を示す 1～3 の符号とを付加することにより区別している。例えば、LED 列 A に属する 1 番目の LED 573 を LED 573 A1、LED 列 B に属する 3 番目の LED 573 を LED 573 B3 としている。

20

【0204】

また、30 個の LED 573 は何れも、少なくとも一部が正面視において非透光部 577 の後側に重なるように、透光文字部 578 と非透光縁取り部 577a との境目に沿って非透光縁取り部 577a の後側に配置されている。具体的には、互いに近接する複数の透光文字部 578 により挟まれた非透光部 577（中間非透光部）に対応して配置される LED 573（ここでは LED 573 G3, 573 I1, 573 I2, 573 J2）については、その非透光部 577 の略中央（各透光文字部 578 から略等距離の位置）に対応してその後側に配置されている。また、周囲を透光文字部 578 により略囲まれた非透光部 577 に対応して配置される LED 573（ここでは 573 F1）については、その非透光部 577 の略中央（周囲の透光文字部 578 から略等距離の位置）に対応してその後側に配置されている。これらの場合は、非透光部 577 の幅と LED 573 との大小関係に応じて、LED 573 の方が大であれば（例えば LED 573 I1）、LED 573 の一部分が透光文字部 578 側にはみ出した状態となるが、LED 573 の方が小であれば（例えば LED 573 J2, 573 J3）、LED 573 の全体が非透光部 577 の後側に重なった状態となる。

30

【0205】

一方、それら以外の LED 573、即ち透光文字部 578 に対して十分な広さの非透光部 577 が接している場合には、その非透光部 577 に対応して配置される LED 573（ここでは LED 573 A1～573 A3, 573 B1～573 B3 等）については、LED 573 の縁部が非透光部 577 と透光文字部 578 との境目と前後に略一致するように配置されている。この場合、LED 573 の縁部は透光文字部 578 側にはみ出さないことが望ましいが、一部はみ出すように配置してもよい。

40

【0206】

このように、LED 573 を非透光部 577 の後側に配置することで、LED 573 から真正面に向けて発せられた光が透光文字部 578 に直接照射されることがない（又は少ない）ため、点光りを解消して透光文字部 578 の明度差を小さくすることが可能である。

50

【0207】

また複数の透光領域578a～578nのうち、複数のLED573が配置されている特定透光領域（ここでは透光領域578a，578d～578f，578h，578i，578n）については、各特定透光領域に対応するLED（特定光源）573が次のように配置されている。即ち、特定透光領域に対応する各LED573は、その特定透光領域に対応するその他のLED573のうちの少なくとも一つに対する直線経路全体が、正面視において特定透光領域内を通過するように配置されている。

【0208】

具体的には、特定透光領域578aに対応するLED573A1～573A3，573B1～573B3のうち、LED573A1に関しては、LED573A2に対する直線経路L1と、LED573A3に対する直線経路L2との各全体が正面視において特定透光領域578a内を通過している。同様に、LED573A2に関しては、LED573A1に対する直線経路L1と、LED573B1に対する直線経路L3との各全体が正面視において特定透光領域578a内を通過している。その他のLED573A3，573B1～B3に関しても同様である。これにより、複数のLED573による各発光領域が特定透光領域内で互いに重なりあうため、点光りによる透光文字部578の明度差をより小さくすることが可能である。

【0209】

また図33の部分拡大図に示すように、LED573は略矩形状に形成され、四辺のうちの所定対辺573a，573bに夫々3つの端子569a～569c，569d～569fが配置されている。そして、それら各端子569a～569c，569d～569fからは、夫々配線パターン570a～570c，570d～570fが、所定対辺573a，573bに対して垂直な方向に少なくとも所定距離Xまでまっすぐ平行に引き出された後、任意の方向に屈折し、或いはそのままビア等に接続されている。従って、LED基板574の縁部近傍に配置され、特に基板縁部までの距離が所定距離Xに満たないLED573については、図33の部分拡大図に示すように、端子569a～569c，569d～569fが設けられている所定対辺573a，573bとは別の、端子が設けられていない辺573cがLED基板574の縁部に向くように配置されている。これにより、LED573をLED基板574の縁部近傍に配置せざるを得ないにも拘わらず配線パターンの引き回しが容易になるという利点がある。

【0210】

以上説明したように、本実施形態のパチンコ機は、透光文字部（透光部）578と、この透光文字部578を発光させる複数のLED（光源）573とを有する可動電飾装置（電飾装置）540を備え、透光文字部578の外縁に非透光部577を設け、LED573を、非透光部577の後側に配置しているため、可動電飾装置540の点光りによる透光文字部578の明度差を小さくすることにより発光時の見栄えをよくすることが可能である。

【0211】

また、LED573を、透光文字部578と非透光部577との境目に、少なくとも一部分が可動電飾装置540に対する正面視において非透光部577の後側に重なるように配置しており、しかも非透光部577のうち、両側を透光文字部578で挟まれた中間非透光部については、幅方向略中央に対応してその後側にLED573を配置しているため、点光りを解消しつつ、透光文字部578全体をより明るく且つなるべく均等に発光させることが可能である。

【0212】

また、透光文字部578は、非透光部577により互いに分離された複数の透光領域578a～578nを備え、複数の透光領域578a～578nのうちの特特定光領域に対応して、その外周の非透光部577の後側に複数のLED573（以下、特定光源）を配置し、それら特定光源を、その他の特定光源のうちの少なくとも一つに対する直線経路全体が、可動電飾装置540に対する正面視において特定透光領域内を通過するように配置

しているため、複数の特定光源による各発光領域が特定透光領域内で互いに重なりあうことにより、点光りによる透光文字部 578 の明度差をより小さくすることが可能である。

【0213】

また可動電飾装置 540 の短手方向に配列された複数の LED 573 よりなる LED 列（光源列）を、可動電飾装置 540 の長手方向に複数配列し、LED 列毎に異なるチャンネルで LED 573 を制御するように構成しているため、LED 573 の発光状態（発光色や点灯／消灯等の発光態様）を文字列の配列方向に順次変化させるような発光制御を容易に行うことが可能である。

【0214】

また、LED 基板 574 を、少なくとも一部の縁部が透光文字部 578 の外形に沿う形状に形成し、LED 基板 574 の縁部近傍の LED 573 に関しては、端子が設けられた所定対辺とは別の辺が LED 基板 574 の縁部に向くように配置しているため、LED 573 を LED 基板 574 の縁部近傍に配置せざるを得ないにも拘わらず配線パターンの引き回しが容易になるという利点がある。

【0215】

図 36～図 39 は本発明の第 5 の実施形態を例示し、第 4 の実施形態を一部変更して、透光部内に、非透光部よりなる非透光文字部を設け、非透光文字部の後側に LED を配置した例を示している。本実施形態が第 4 の実施形態と異なるのは、可動電飾装置における透光部／非透光部の配置と、それに伴う LED の配置及び可動電飾装置の形状のみである。以下、第 4 の実施形態と異なる分を中心に可動電飾装置の構成について説明する。

【0216】

本実施形態の可動電飾装置 590 は、図 36～図 38 に示すように、第 4 の実施形態の可動電飾装置 540 と同様、前カバー体 591 と、ベース体 592 と、複数の LED（光源）593 が配置された LED 基板 594 とで構成されている。前カバー体 591 は、透光性を有する合成樹脂製で、前面板 595 と、この前面板 595 の外周に沿って後向きに延設された外周板 596 とを一体に備えている。前カバー体 591 の前面板 595 には、例えば横書きのゴシック体による「カップ伝説」の文字列に対応する文字領域（非透光文字部 597a）と、それらの各文字を個別に取り囲む枠領域（非透光枠部 597b）とに対して前面側に非透光処理が施されており、これによって前面板 595 には、矩形状に形成された五つの透光部 598 内に夫々非透光文字部 597a を構成する「カ」、「ッ」、「パ」、「伝」、「説」の文字が形成されている。なお、前カバー体 591 の前面板 595 は、非透光枠部 597b の外形に沿って横長矩形状に形成されている。

【0217】

非透光部 597a、597b を形成するための非透光処理は、メッキ処理、非透光性シートの貼付等、任意である。また非透光部 597a、597b は、完全な非透光性が要求されるものではなく、透光部 598 に比べて光の透過率が十分に小さければよい。また非透光処理は前カバー体 591 の外周板 596 の外面側にも施すことが望ましい。

【0218】

また、前カバー体 591 の内面側には、図 38 に示すように、LED 基板 594 等を前側から見えにくくするとともに LED 593 から発せられた光を適度に拡散させるべく、少なくとも透光部 598 に対応する領域にレンズカット加工その他の光拡散処理が施されている（光拡散部 599）。

【0219】

なお図 38 では、透光部 598 の後側の領域だけでなく、非透光部 597a、597b の後側の領域にも光拡散処理を施した例を示したが、透光部 598 の後側の領域にのみ光拡散処理を施し、非透光部 597a、597b の後側の領域には光拡散処理を施さないようにしてもよい。また、非透光部 597a、597b の後側にも光拡散処理を施す場合、非透光部 597a、597b 全体ではなく、LED 593 の前側に対応する一定領域にのみ光拡散処理を施してもよい。また、透光部 598 と非透光部 597a、597b との両方に対応して光拡散処理を施す場合、透光部 598 の後側と非透光部 597a、597b

の後側とで光拡散処理の種類（例えばレンズカット加工の種類）を異ならせてもよい。この場合のレンズカット加工の種類は、ボールカット加工、ローレット加工、ダイヤカット加工、アイスカット加工等、任意である。また透光部 598 に関しては、その透光部 598 側（すなわち前面側）にも内面側と同じ、又は異なる種類のレンズカット加工を施してもよい。

【0220】

前カバー体 591 は、ベース体 592 の前側にねじ止め等により着脱自在に固定されている。ベース体 592 は、透光性を有しない合成樹脂製で、前カバー体 591 の外形と略同じ形状に形成された前面板 601 と、この前面板 601 の外周に沿って後向きに延設された外周板 602 とを一体に備え、前面板 601 の前面側に前カバー体 591 が固定されている。前カバー体 591 の後側がこのベース体 592 の前面板 601 により略閉鎖されることにより、前カバー体 591 内には発光室 603 が形成されている。なお、ベース体 592 の左右両端側には、案内レール 543 に対してスライド移動可能に装着されるレール接続部 604 が設けられている。

10

【0221】

LED 基板 594 は、前カバー体 591 における外周板 596 の内面に沿う横長矩形状に形成された基板本体 605 と、この基板本体 605 の前面側に配置された複数の LED 593 と、基板本体 605 の裏面側に配置されたコネクタ 606 とを備え、発光室 603 内の後部所定位置に配置された状態でベース体 592 の前面板 601 に対してねじ止め等により着脱自在に固定されている。

20

【0222】

ベース体 592 の前面板 601 には、基板支持用のボス 607 が前向き突出状に形成されており、このボス 607 により、LED 基板 594 はベース体 592 との間に一定の隙間を保持した状態で支持されている。コネクタ 606 に接続されるハーネス 608 は、ベース体 592 に形成された開口部 609 を経て可動電飾装置 590 の後側に引き出され、中継基板等を介してサブ制御基板 562 に接続されている。

【0223】

LED 基板 594 には、 $3 \times 9 = 27$ 個の LED 593 が、前カバー体 591 側の非透光文字部 597a、即ち「カップ伝説」の文字列に対応して配置されている。即ち、LED 基板 594 には、図 39 に示すように、可動電飾装置 590 の短手方向（ここでは文字列の幅方向である上下方向）に配列された複数（ここでは 3 個）の LED 593 よりなる LED 列（光源列）が、可動電飾装置 590 の長手方向（ここでは文字列の配列方向である左右方向）に複数（ここでは A～I の 9 組）配列されている。そして、LED 基板 594 上の LED 593 は、LED 列毎に異なるチャンネルで発光制御されるようになっている。これにより、LED 593 の発光状態（発光色や点灯／消灯等の発光態様）を文字列の配列方向に順次変化させるような発光制御を容易に行うことが可能である。

30

【0224】

なお図 37 では、27 個の LED 593 を、所属する LED 列を示す A～I の符号（図 39）と、それら各 LED 列内の番号を示す 1～3 の符号とを付加することにより区別している。例えば、LED 列 A に属する 1 番目の LED 593 を LED 593 A1、LED 列 B に属する 3 番目の LED 593 を LED 593 B3 としている。

40

【0225】

また、27 個の LED 593 は、何れも非透光文字部 597a の後側に配置されており、しかもその配置位置は正面視で非透光文字部 597a の幅方向略中央となっている。これにより、LED 593 から真正面に向けて発せられた光が透光部 598 に直接照射されることがない（又は少ない）ため、点光りを解消して透光部 598 の明度差を小さくすることが可能であるとともに、非透光文字部 597a のシルエットをよりはっきりと浮かび上がらせることが可能である。

【0226】

図 40、図 41 は本発明の第 6 の実施形態を例示し、第 5 の実施形態を一部変更して、

50

LED 593を、非透光文字部 597aの後側だけでなく非透光枠部 597bの後側にも配置した例を示している。本実施形態が第5の実施形態と異なるのはLED 593の配置のみである。以下、第5の実施形態と異なる点を中心に説明する。

【0227】

本実施形態のLED基板 594には、 $3 \times 16 = 48$ 個のLED 593が、前カバー体 591側の非透光文字部 597aと非透光枠部 597bとに対応して配置されている。即ち、図41に示すように、LED基板 594には、可動電飾装置 590の短手方向（ここでは文字列の幅方向である上下方向）に配列された複数（ここでは3個）のLED 593よりなるLED列（光源列）が、可動電飾装置 590の長手方向（ここでは文字列の配列方向である左右方向）に複数（ここではA～Pの16組）配列されている。そして、LED基板 594上のLED 593は、LED列毎に異なるチャンネルで発光制御されるようになっている。これにより、LED 593の発光状態（発光色や点灯／消灯等の発光態様）を文字列の配列方向に順次変化させるような発光制御を容易に行うことが可能である。

10

【0228】

なお図40では、48個のLED 593を、所属するLED列を示すA～Pの符号と、それら各LED列内の番号を示す1～3の符号とを付加することにより区別している。例えば、LED列Aに属する1番目のLED 593をLED 593A1、LED列Bに属する3番目のLED 593をLED 593B3としている。

【0229】

また、48個のLED 593は、何れも非透光文字部 597aと非透光枠部 597bとの何れかの後側に配置されている。そして、透光部 598の内側に配置されている非透光文字部 597aに対応するLED 593（例えばLED 593B2，593B3）は、正面視で非透光文字部 597aの幅方向略中央に配置されている。また、透光部 598の外側に配置されている非透光枠部 597bに対応するLED 593のうち、二つの透光部 598により挟まれた非透光枠部 597bに対応して配置されるLED 593（例えばLED 593D2，593G2等）については、その非透光枠部 597bの略中央（各非透光枠部 597bから略等距離の位置）に対応してその後側に配置されており、それら以外のLED 593、即ち透光部 598に対して十分な広さの非透光枠部 597bが接している場合には、その非透光枠部 597bに対応して配置されるLED 593（ここではLED 593A1～593A3，593B1，593C3等）については、LED 593の縁部が非透光枠部 597bと透光部 598との境目と前後に略一致するように配置されている。なお何れの場合も、LED 593の縁部は透光部 598側にはみ出さないことが望ましいが、一部はみ出すように配置してもよい。

20

30

【0230】

LED 593をこのように配置していることにより、LED 593から真正面に向けて発せられた光が透光部 598に直接照射されることがない（又は少ない）ため、点光りを解消して透光部 598の明度差を小さくすることが可能であるとともに、非透光文字部 597aのシルエットをよりはっきりと浮かび上がらせることが可能である。

【0231】

また図40の部分拡大図に示すように、LED 593は略矩形状に形成され、四辺のうちの所定対辺 593a，593bに夫々3つの端子 569a～569c，569d～569fが配置されている。そして、それら各端子 569a～569c，569d～569fからは、夫々配線パターン 570a～570c，570d～570fが、所定対辺 593a，593bに対して垂直な方向に少なくとも所定距離Xまでまっすぐ平行に引き出された後、任意の方向に屈折し、或いはそのままビア等に接続されている。従って、横長矩形状に形成されたLED基板 594の縁部近傍に配置され、特に基板縁部までの距離が所定距離Xに満たないLED 593（LED 593A1～593A3，593B1等）については、図40の部分拡大図に示すように、端子 569a～569c，569d～569fが設けられている所定対辺 593a，593bとは別の、端子が設けられていない辺 593cがLED基板 594の縁部に向くように配置されている。なお、LED 593は、L

40

50

ＥＤ基板５９４の角部近傍を避けて配置されている（例えばＬＥＤ５９３Ａ１）。これにより、本実施形態のようにＬＥＤ５９３をＬＥＤ基板５９４の縁部近傍に配置せざるを得ない場合でも配線パターンの引き回しが容易になるという利点がある。

【０２３２】

以上、本発明の実施形態について詳述したが、本発明は以上の実施形態に限定されるものではなく、本発明の趣旨を逸脱しない範囲で種々の変更が可能である。例えば、第１～第３の実施形態と、第４～第６の実施形態とは、全く別の遊技機として具現化されているが、前者と後者とを適切に結合することによって同一の遊技機として具現化できることは言うまでもない。例えば、第４～第６の実施形態に係る遊技機上で、第１～第３の実施形態に係る遊技機と同様の貼付シートを用いることができ、また第１～第３の実施形態に係る遊技機上で、第４～第６の実施形態に係る遊技機と同様の電飾装置を採用することも可能である。

【０２３３】

第２の実施形態では、装飾シール（特定装飾貼付シート）Ｓ１７を遊技盤１６における透明本体板５０よりも後側の後部支持部材（所定部材）７４に貼付した例を示したが、特定装飾貼付シートを遊技盤１６（を構成する透明本体板５０）の前面又は後面に貼付してもよい。特定装飾貼付シートを遊技盤１６の前面に貼付する場合、本体板は透明でなくてもよい。注意喚起情報表示部は、上部球通路３１２以外の球通路、例えば発射案内通路８６に対応する位置に配置してもよいし、遊技部品が配置されていない位置であって球通路以外の位置に対応して配置してもよい。

【０２３４】

第１～第３の実施形態では、裏面に糊層を有する装飾シートである装飾シールを遊技盤の所定位置に貼付した例を示したが、糊層を有しない装飾シートを、貼付以外の任意の装着方法で遊技盤に装着してもよい。例えば、装飾シートを遊技盤の後面に装着する場合、透明本体板とその後側に配置される後部支持部材とで装飾シートを挟持してもよい。

【０２３５】

部分糊層を採用する場合、外周領域の糊部は、本体シートの外周に沿って途切れなく一定幅で配置することが望ましいが、部分的な途切れや幅の変化があってもよい。例えば、本体シートの外周にＵ字状、その他の切欠部がある場合、図２７（Ａ）に示すように、切欠部に沿って糊部を一定幅で配置することが望ましいが、図２７（Ｂ），（Ｃ）に示すように、切欠部の大きさや形状に応じて外周領域の糊部に途切れ箇所や幅狭箇所が生じてもよい。剥がしやすさを優先するのであれば図２７（Ａ）よりも図２７（Ｂ），（Ｃ）の方が有利である。また、外周領域の一部を糊なし部としてもよいし、外周領域の一部について糊部の幅を狭く（幅狭部）してもよい。これにより、貼付シートを剥がす際に糊なし部や幅狭部に工具を差し込めるため、作業が容易となる。

【０２３６】

第１～第３の実施形態では、装飾シールＳ１１～Ｓ１７のうち、面積が比較的小さい装飾シールＳ１４，Ｓ１６については全面糊層を採用したが、このような場合、部分糊層の場合よりも全面糊層の場合の方が粘着力の低い糊を使用するようにしてもよい。また、装飾シールＳ１４，Ｓ１６についても部分糊層を採用してもよい。

【０２３７】

第１～第３の実施形態では、図１０に示すように、複数種類の注意喚起シールＳ１～Ｓ７の全てにおいて共通の色配置を採用したが、複数種類の色配置を採用してもよい。但しこの場合でも、使用する色の組合せ（黄色、黒色、白色）は共通とし、他の貼付シートではその色の組合せは使用しないことが望ましい。図２８は、図１０に示す注意喚起シールＳ１～Ｓ７のうち、注意喚起シールＳ５～Ｓ７について異なる色配置を採用した例を示している。図２８に示す注意喚起シールＳ５～Ｓ７では、背景を白色、文字等を黒色とし、本体シートの外周に沿って黒色の縁取りを設けている。また、第１注意記号ｓ１'については、黒色の縁取りがされた黄色の三角形の中に黒色の「！」が配置された構成となっている。

10

20

30

40

50

【0238】

図28(A)に示す注意喚起シールS5では、上辺に沿って一定幅の領域に形成された第1表示部a1に、第1注意記号s1'と、黒色のゴシック体よりなる「注意」の文字で構成される第2注意記号s2とが表示され、その下側の第2表示部a2に、ゴシック体よりなる「金属部品のエッジに注意して下さい。」の横書き文字が黒色で表示されている。

【0239】

図28(B)に示す注意喚起シールS6では、第1表示部a1と第2表示部a2の2つの領域には分けられておらず、また第2注意記号s2は表示されておらず、注意すべき内容を示す「感電、エッジに注意」、「裏カバーの開放に注意」の2種類の文字列の頭に夫々第1注意記号s1'が表示されている。図28(C)に示す注意喚起シールS7も同様に、第1表示部a1と第2表示部a2の2つの領域には分けられておらず、また第2注意記号s2は表示されておらず、注意すべき内容を示す「電源基板高温注意」の文字列の隣に第1注意記号s1'が表示されている。

10

【0240】

なお、図28に示す注意喚起シールについても、使用する色の組合せ（黄色、黒色、白色）は図10に示す注意喚起シールと同じであるため、図11と同じく、PET、紙等の素材よりなる白色の本体シートに対して、その表面（上面）側に、シルク印刷等により黄色（Y版）、黒色（K版）の2版で印刷を行い、また裏面側にはその全面に糊を付着させた全面糊層（糊版）を設ければよい。

【0241】

第1～第3の実施形態では、主基板情報表示シールS23において、白色及び黒色の2色を使用した例を示したが、白色、黒色の何れか一色のみを使用してもよい。また、本体シートの上面側と裏面側とに夫々白色の版による印刷を行うものとしたが、白色の版を上面側と裏面側の何れか一方にのみ配置してもよい。また、主基板情報表示シールS23と同様の情報表示用貼付シートを、その他の基板ケースにも貼付してもよい。

20

【0242】

第1～第3の実施形態では、特定装飾貼付シートに設ける情報表示部として、遊技ホール担当者向け或いは遊技者向けの注意喚起情報表示部、著作権情報表示部、二次元コードを設けた例を示したが、その他の情報表示部、例えば性能情報表示部を特定装飾貼付シートに設けてもよい。実施形態では、情報表示部の一例として二次元コードを例示したが、一次元コード（いわゆるバーコード）でもよいことは言うまでもない。

30

【0243】

第4～第6の実施形態の可動電飾装置の構成については、センターケース21等、遊技盤5上の遊技部品に固定的に配置された電飾装置50や、前枠4側に固定的に配置された電飾装置10等にも同様に適用可能である。もちろん、前枠4側に可動電飾装置を設ける場合にも同様に適用可能である。

【0244】

第4の実施形態では、透光部を文字形状（透光文字部78）とした例を示したが、この場合の透光部は文字形状のものに限られるものではなく、ロゴマーク等の図形やキャラクタ等の絵柄など、どのようなものでもよい。また、第5、第6の実施形態では、透光部内に文字形状の非透光部（非透光文字部97a）を配置した例を示したが、この場合の非透光部についても文字形状のものに限られるものではなく、ロゴマーク等の図形やキャラクタ等の絵柄など、どのようなものでもよい。

40

【0245】

第4～第6の実施形態では、透光性を有する前カバー体71の一部に非透光処理を施すことによって透光部と非透光部とを形成するように構成したが、例えば非透光性の第1部材と透光性の第2部材とを組み合わせる（例えば文字形状の開口部を有する第1部材の裏側に第2部材を嵌め合わせる）ことにより透光部と非透光部とを形成するように構成してもよい。

【0246】

50

第４～第６の実施形態では、電飾装置を遊技機本体１の正面に向けて配置した例を示したが、前枠４の上部側の電飾装置を斜め下向きに配置するなど、例えば正面が遊技者側に向くように、電飾装置を遊技機本体１の正面に対して斜めに配置してもよい。この場合、電飾装置のＬＥＤ（光源）は、遊技機本体１に対する正面視ではなく、その電飾装置に対する正面視において非透光部の後側に配置することが望ましい。

【０２４７】

第４～第６の実施形態では、同一チャンネルのＬＥＤ列に属するＬＥＤを３個としたが、２個或いは４個以上としてもよい。

【０２４８】

第１～第６の実施形態のうちの２以上を適宜組み合わせてもよい。また、実施形態は本発明をパチンコ機に採用した例を示したが、スロットマシン、アレンジボール機、雀球遊技機等の各種の遊技機においても同様に実施することが可能である。

【符号の説明】

【０２４９】

Ｓ１

～Ｓ７ 注意喚起シール（貼付シート、注意喚起情報貼付シート）

Ｓ１１

～Ｓ１７ 装飾シール（貼付シート、装飾貼付シート、装飾シート）

Ｓ２１ 性能情報表示シール（貼付シート）

Ｓ２２ 外部端子情報表示シール（貼付シート）

Ｓ２３ 主基板情報表示シール（貼付シート）

７ ガラス扉（開閉扉）

１３１

～１３６ 被貼付部

３０１ 第１注意喚起情報表示部

３０２ 第２注意喚起情報表示部

３０３ 著作権情報表示部

３０４ 二次元コード表示部

３１１ 被貼付部

３１５ 注意喚起情報表示部

５４０ 可動電飾装置

５７３ ＬＥＤ（光源）

５７７ 非透光部

５７８ 透光文字部（透光部）

５７８ａ～５７８ｎ 透光領域

５９３ ＬＥＤ（光源）

５９７ａ 非透光文字部（非透光部）

５９７ｂ 非透光枠部（非透光部）

５９８ 透光部

10

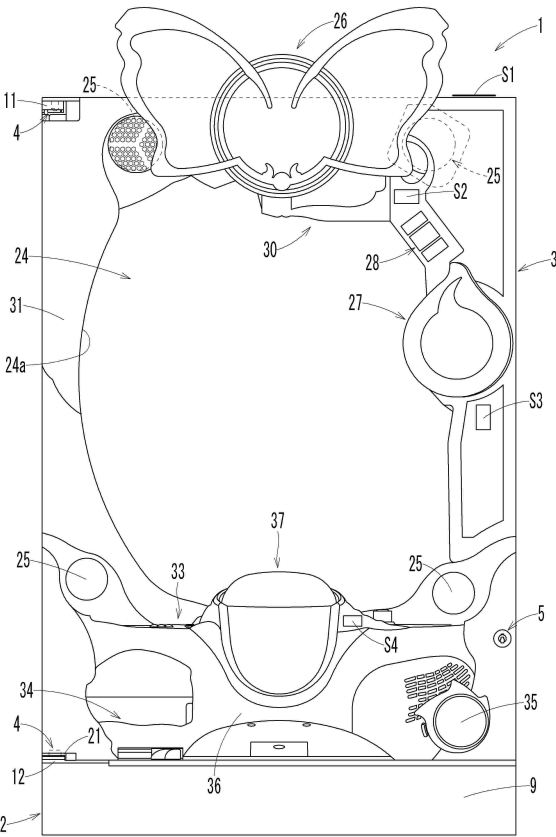
20

30

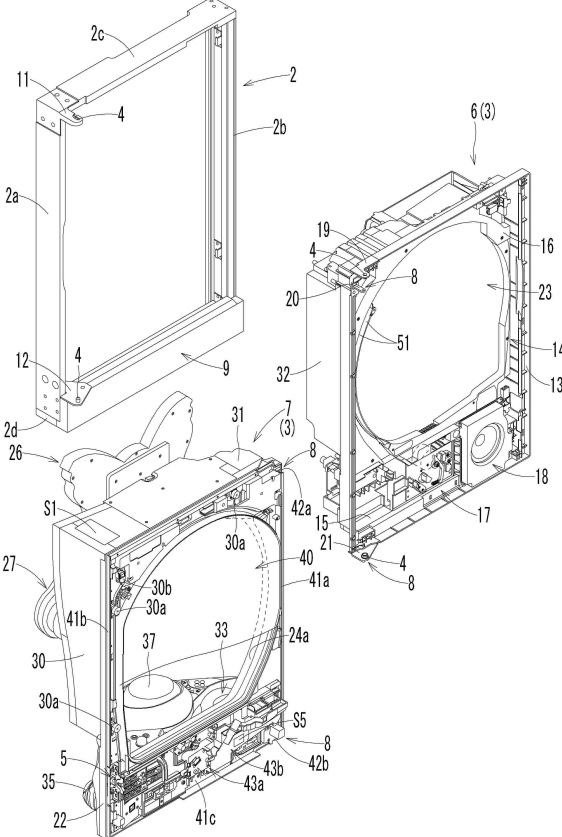
40

50

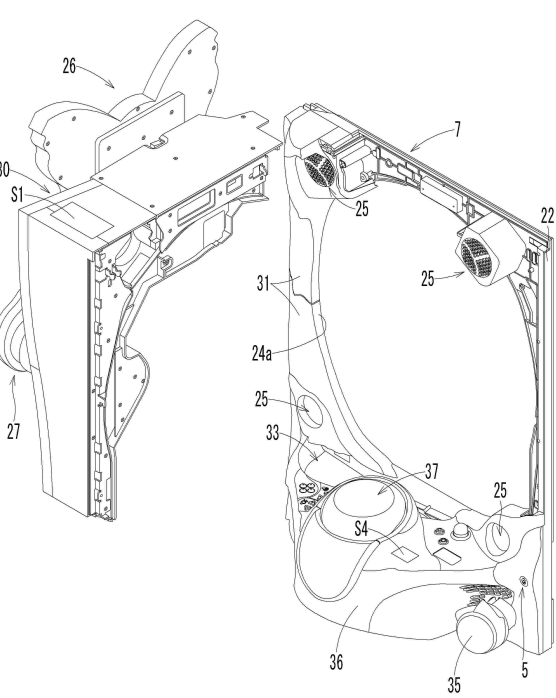
【図面】
【図 1】



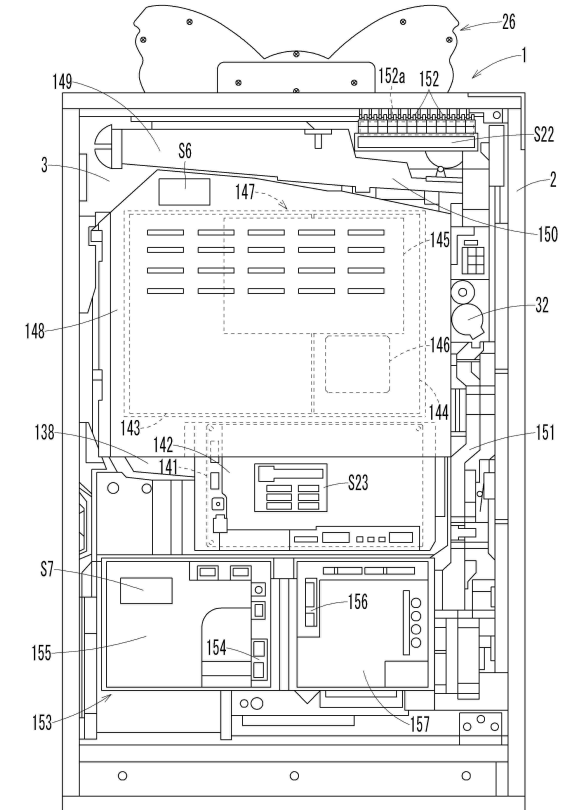
【図 2】



【図 3】



【図 4】



10

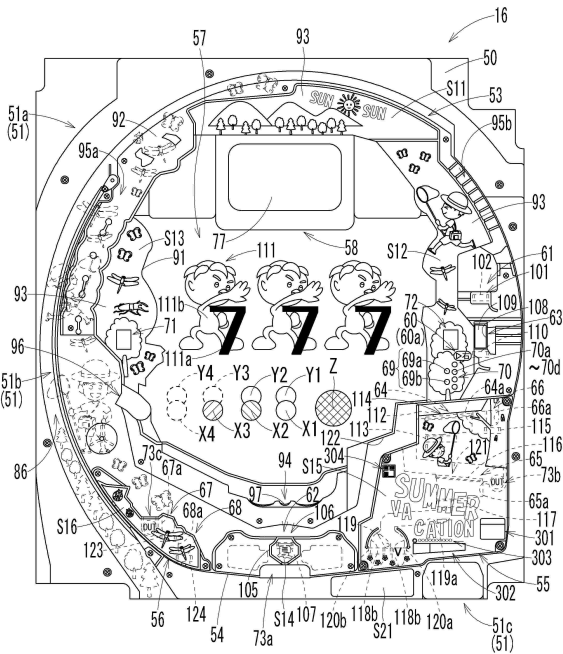
20

30

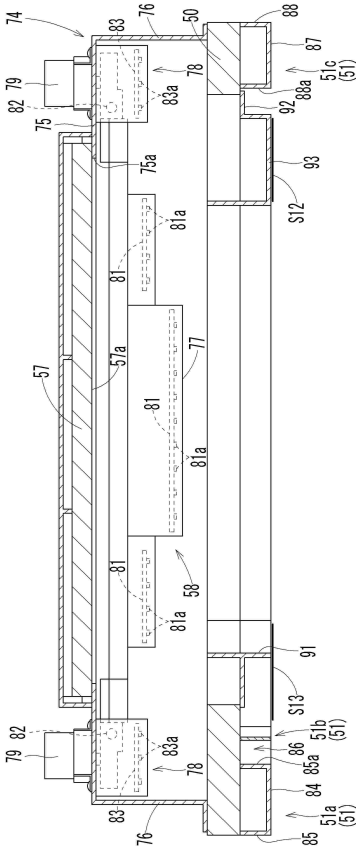
40

50

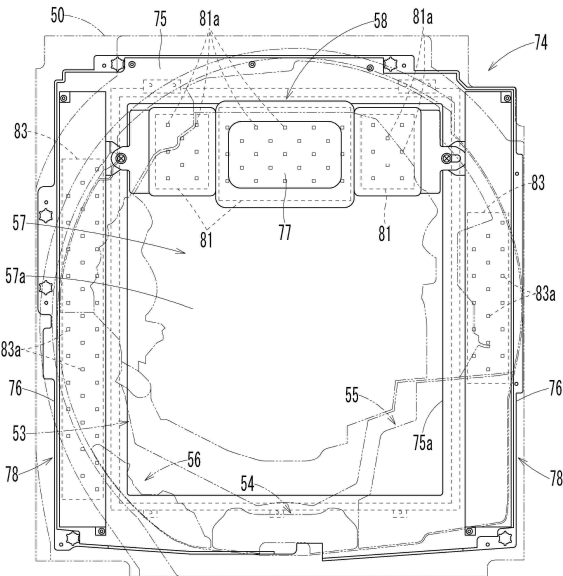
【図 5】



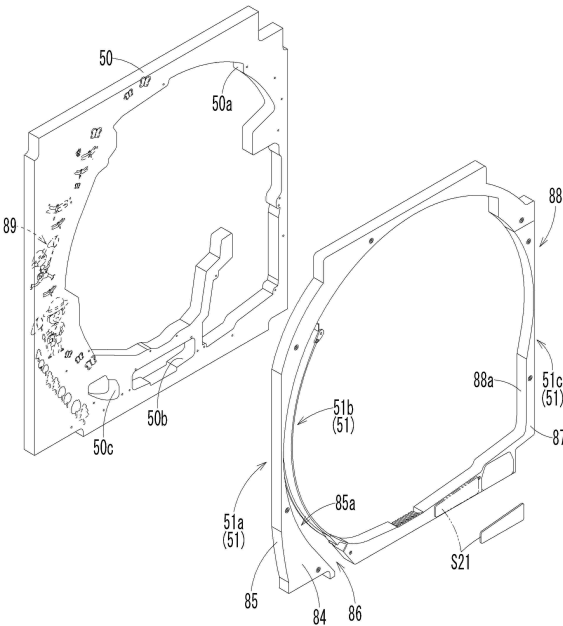
【図 6】



【図 7】



【図 8】



10

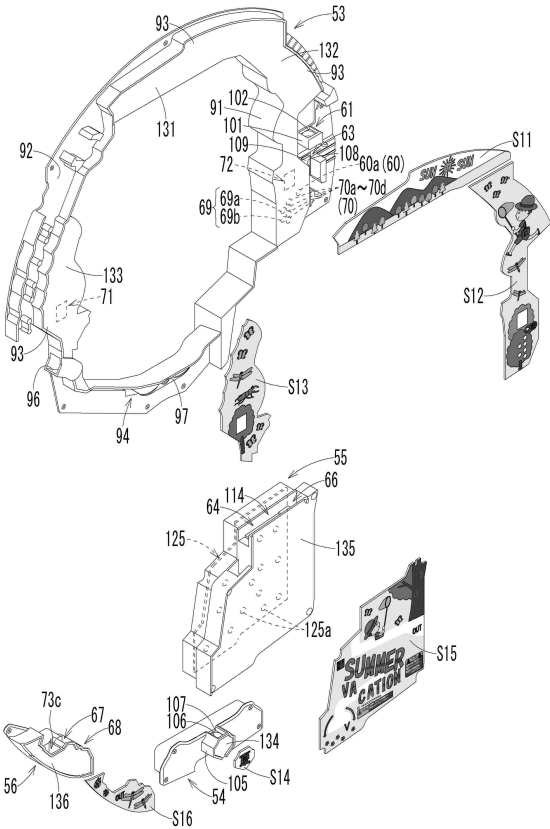
20

30

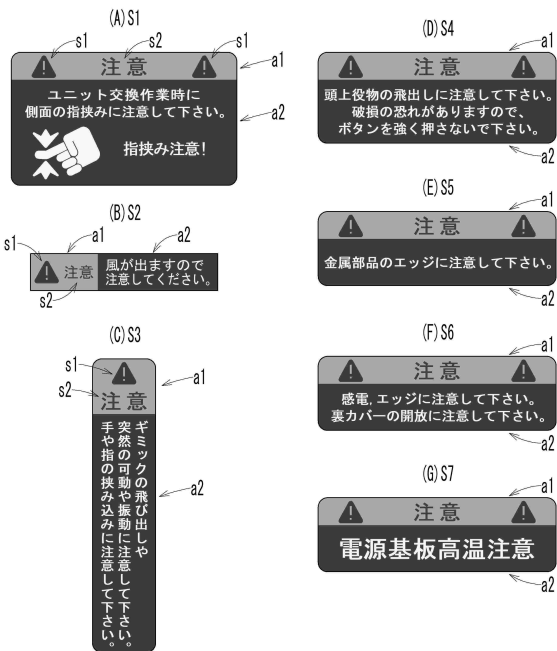
40

50

【図 9】



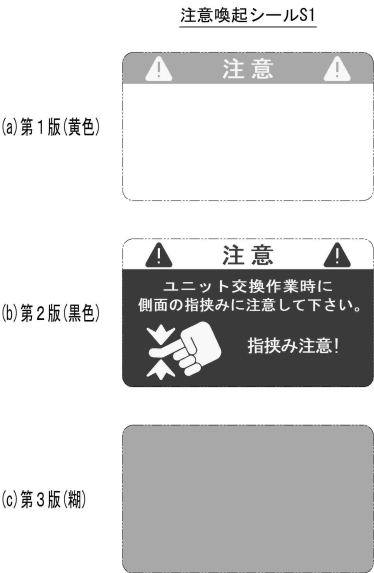
【図 10】



10

20

【図 11】



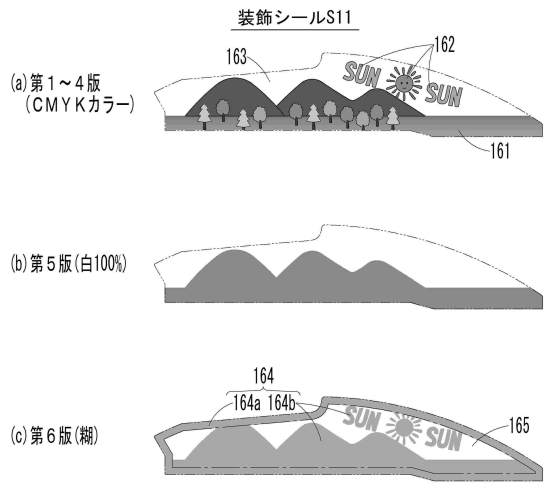
(A)

版数	1	2	3
使用色	黄色(Y) 黒色(K)	シルク2版	糊版

(B)

上面
シルク2版(Y, K)
白色シート
糊版(全面)
底面

【図 12】



(A)

版数	1	2	3	4	5	6
使用色	シアン(C)	マゼンタ(M)	黄色(Y)	黒色(K)	シルク白(100%)	糊版

(B)

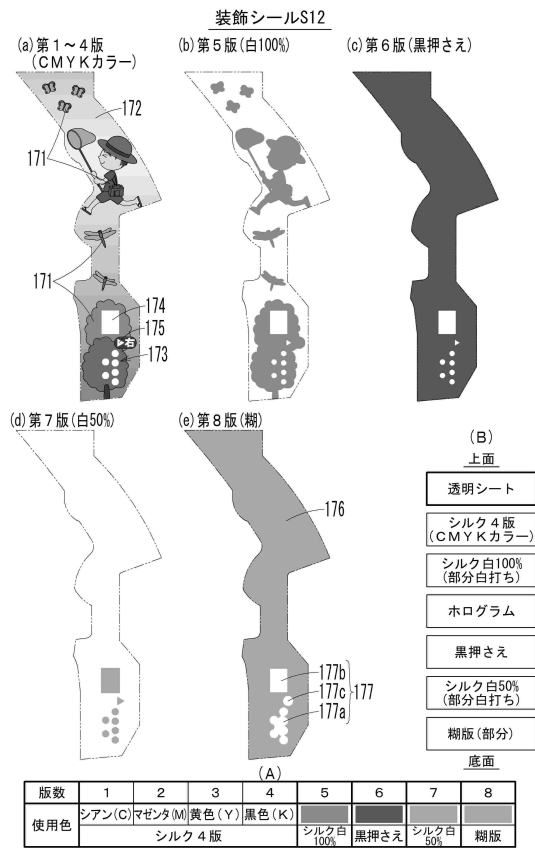
上面
透明シート
シルク4版(CMYKカラー)
シルク白(部分白打ち)
糊版(部分)
底面

30

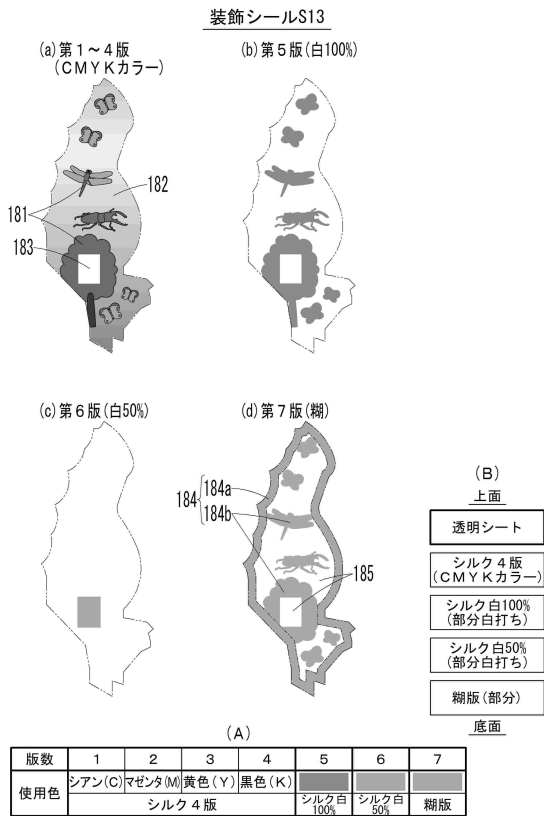
40

50

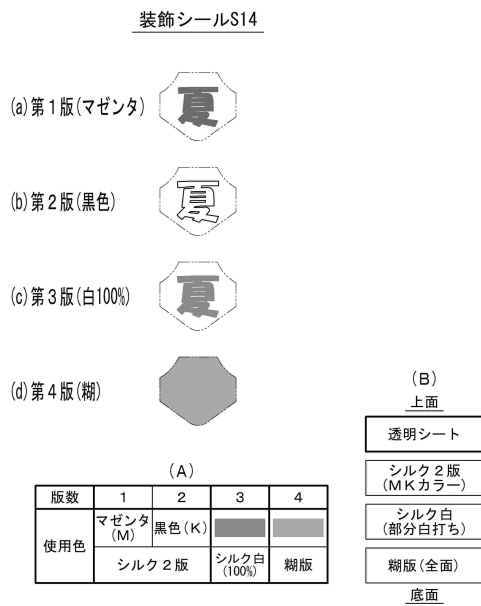
【図 1 3】



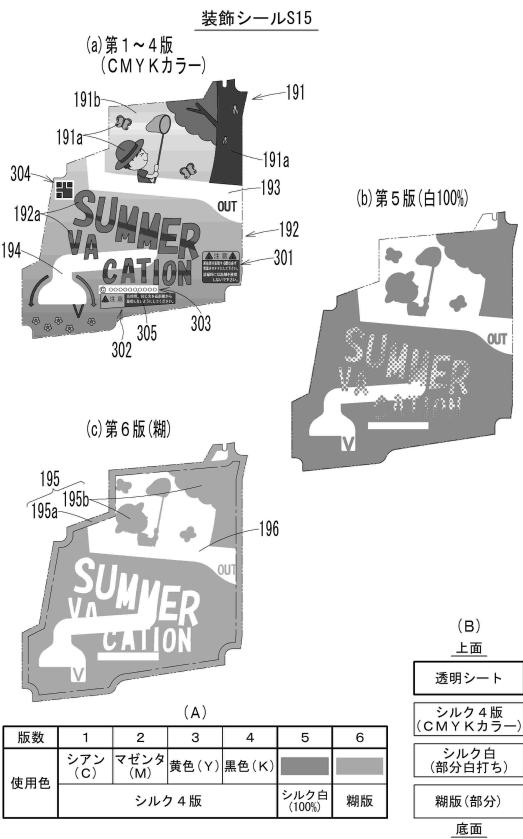
【図 1 4】



【図 1 5】



【図 1 6】



10

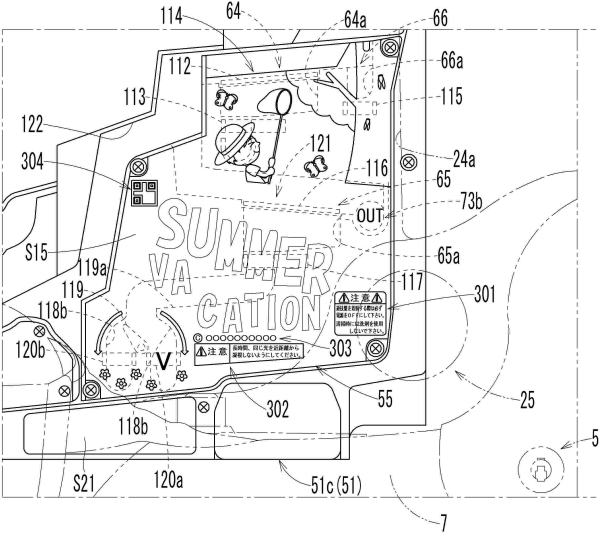
20

30

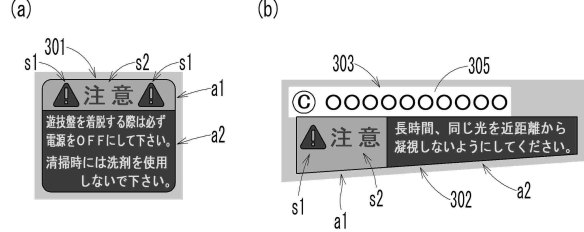
40

50

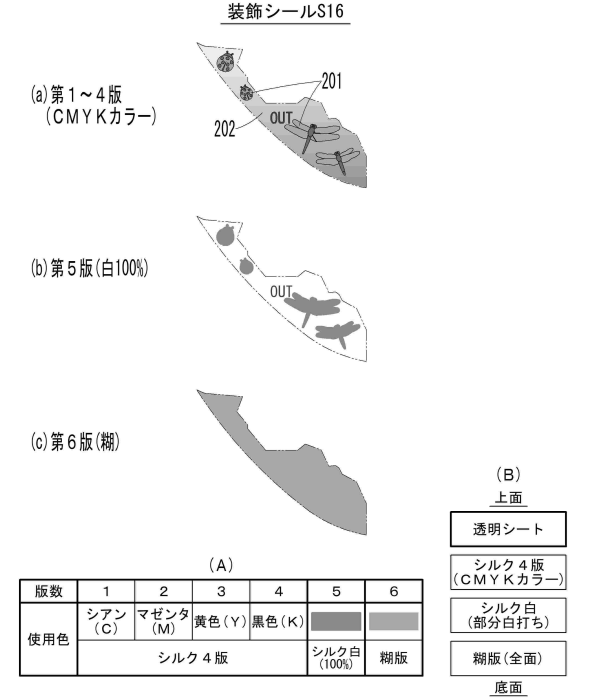
【図 1 7】



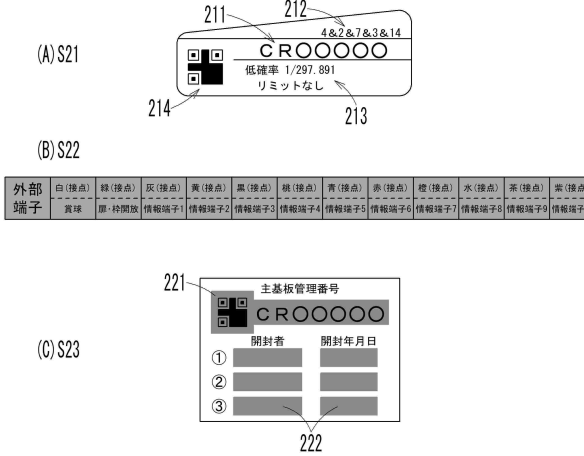
【図 1 8】



【図 1 9】



【図 2 0】



10

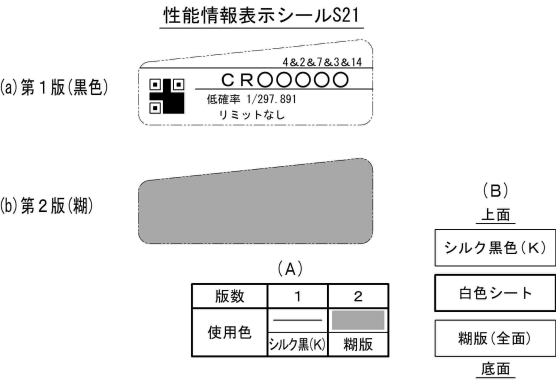
20

30

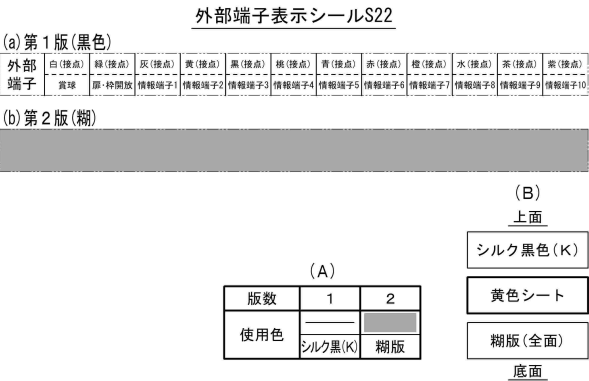
40

50

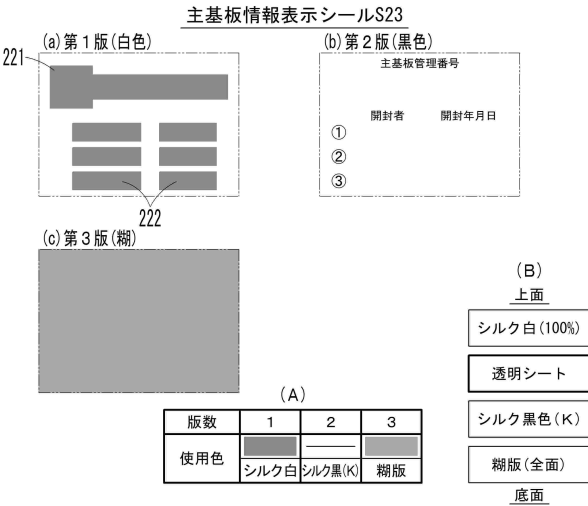
【図 2 1】



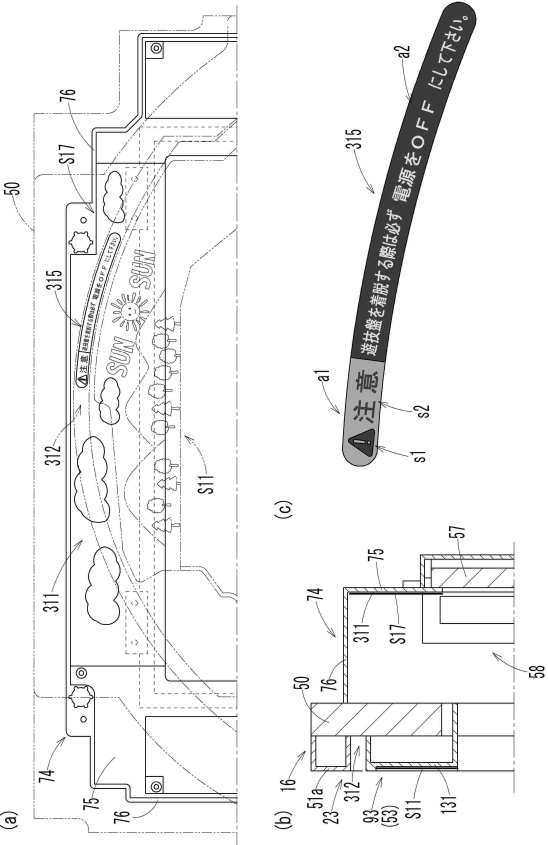
【図 2 2】



【図 2 3】



【図 2 4】



10

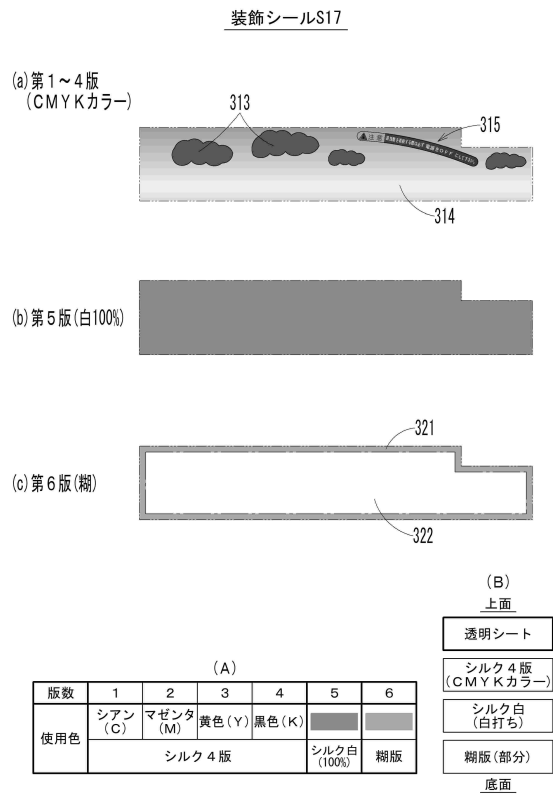
20

30

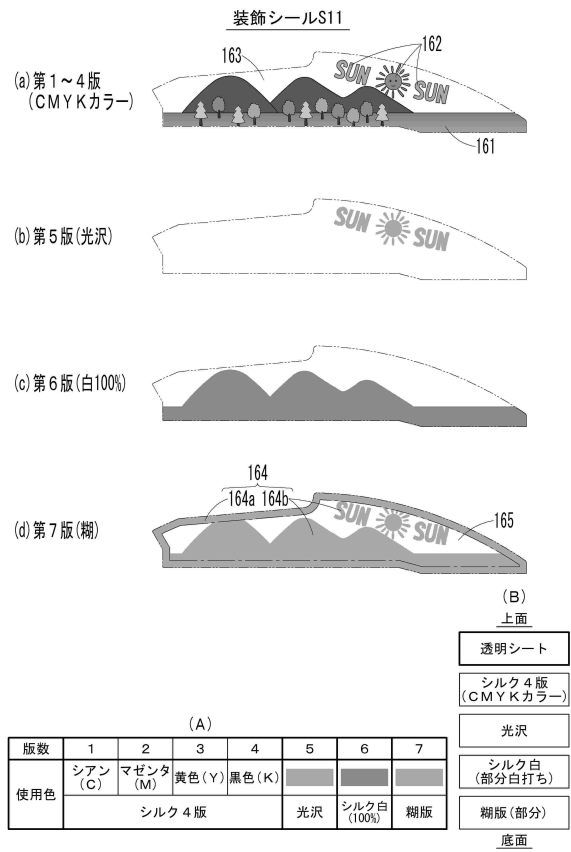
40

50

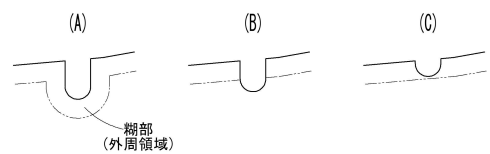
【図 2 5】



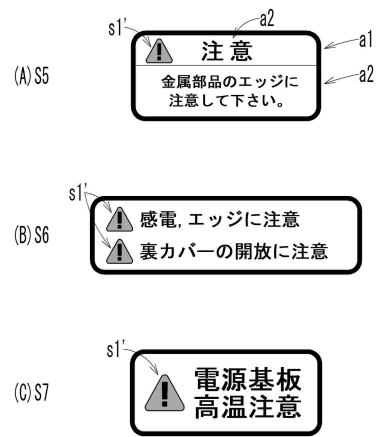
【図 2 6】



【図 2 7】



【図 2 8】



10

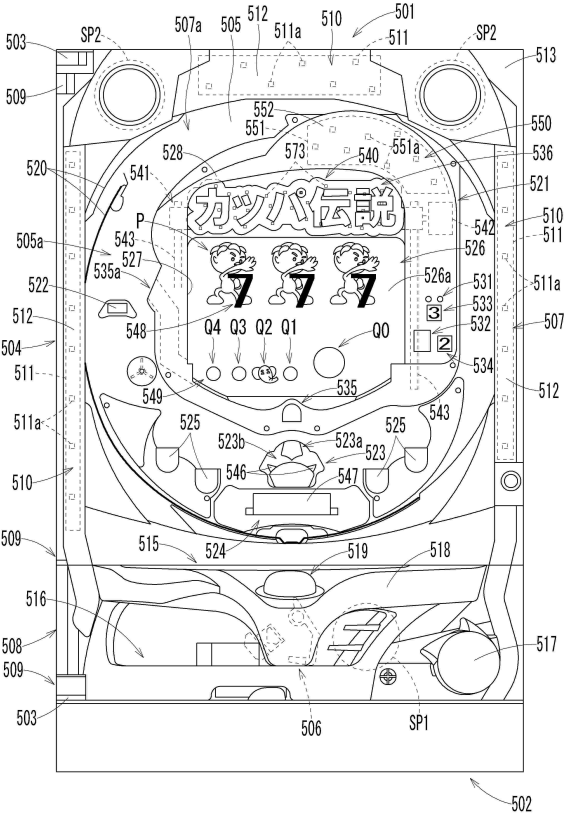
20

30

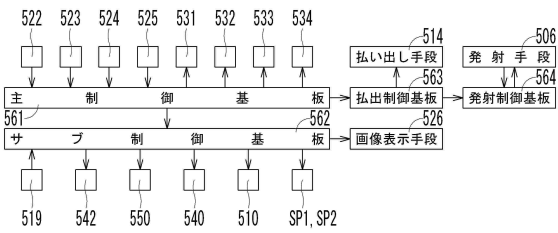
40

50

【図 2 9】



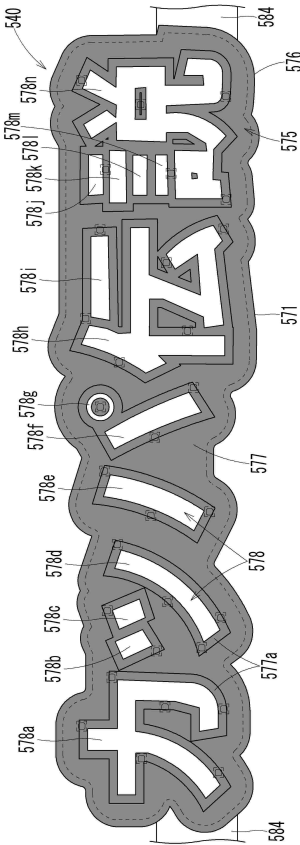
【図 3 0】



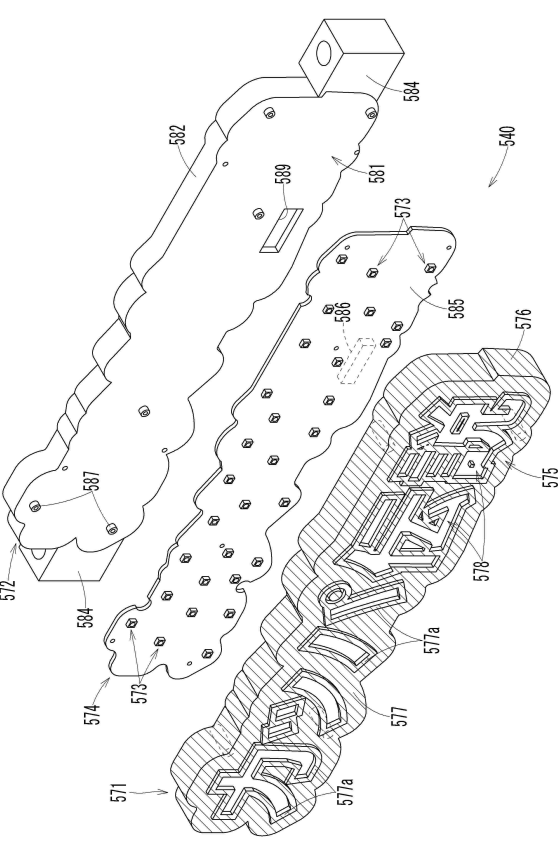
10

20

【図 3 1】



【図 3 2】

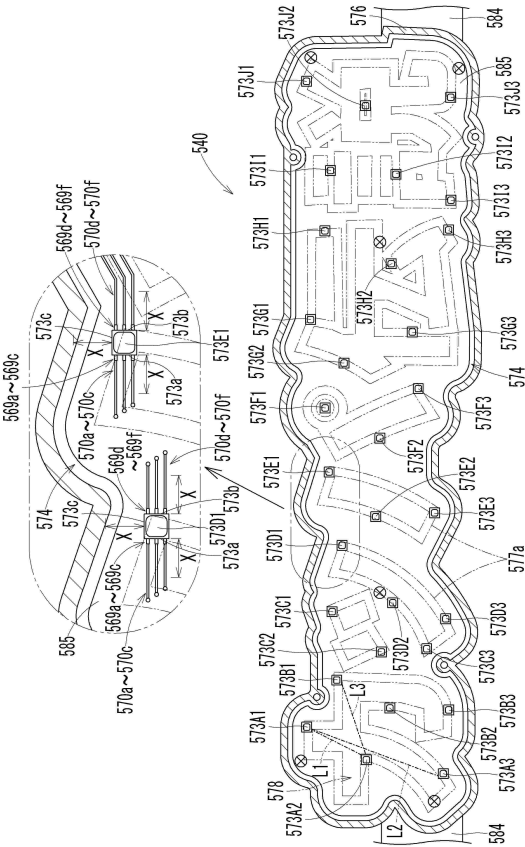


30

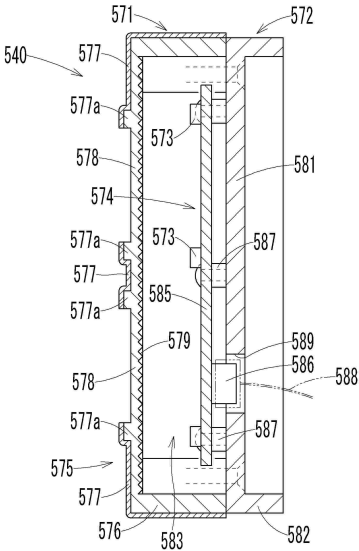
40

50

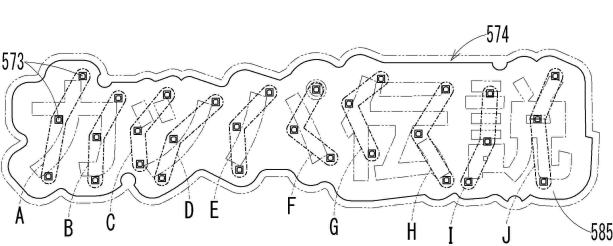
【図 3 3】



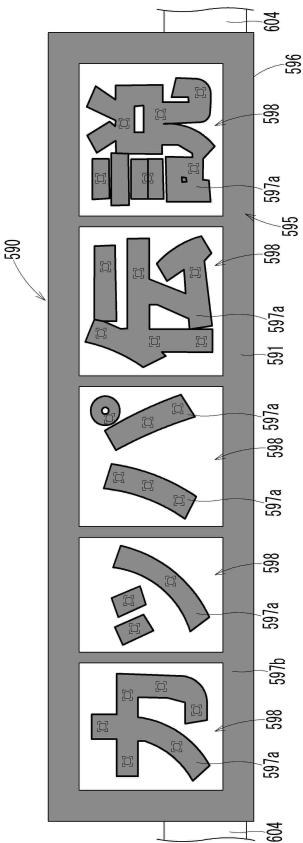
【図 3 4】



【図 3 5】



【図 3 6】



10

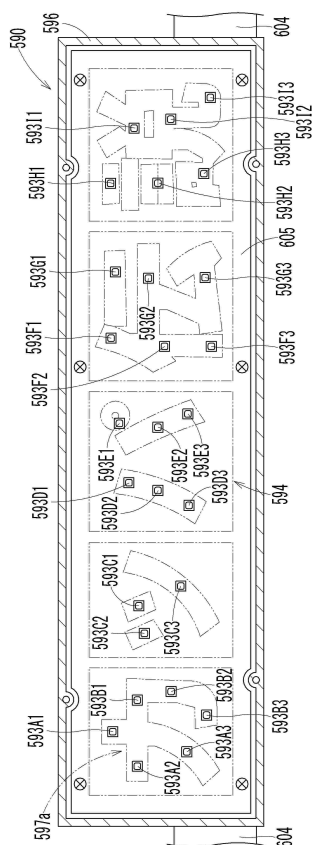
20

30

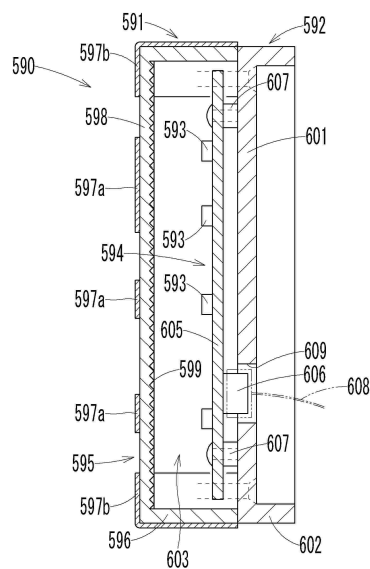
40

50

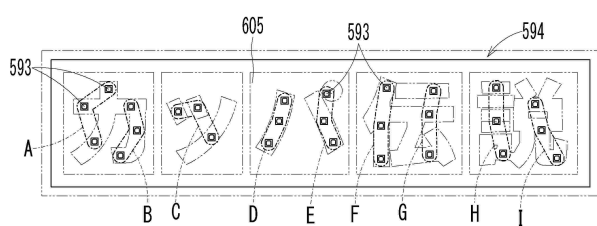
【図 3 7】



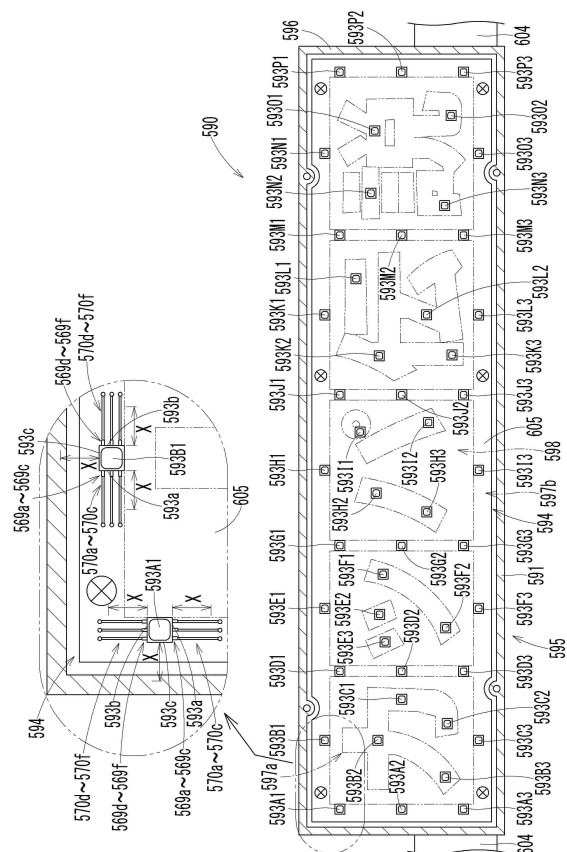
【圖 38】



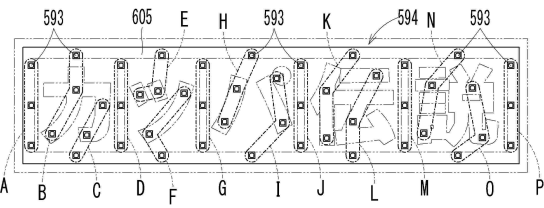
【図 39】



【図 40】



【図 4 1】



10

20

30

40

50